

SONY®

サウンドバー

取扱説明書

接続と準備をする

音声を聞く

サウンド効果を選ぶ

BLUETOOTH®機能で音楽／
音声を聞く

ネットワーク機能で音楽／
音声を聞く

さまざまな機能／設定を
使う

困ったときは

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故
になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示
しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品
を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

(→ 96 ページ～101 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

96～101 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。102 ページの「使用上の注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

目次

箱の中身を確かめる	5
本機でできること	6
各部の名称とはたらき	8
ホームメニューの使いかた	13

接続と準備をする

基本の接続 → スタートガイド(別紙)
と準備 をご覧ください。

基本の接続と準備	16
4Kテレビと4K対応機器をつなぐ	16
eARC対応テレビとつなぐ	20
アナログ入力端子にテレビやポータブルオーディオ機器をつなぐ	21
有線でネットワークにつなぐ	22
無線でネットワークにつなぐ	23
壁に取り付ける	25
グリルを取り付ける	27

音声を聞く

テレビの音声を聞く	28
つないだ機器の音声を聞く	28
USB機器の音楽を聞く	29

サウンド効果を選ぶ

音源に合わせたサウンド効果に設定する (サウンドフィールド)	31
深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ (ナイトモード)	32
セリフを聞きやすくする (ボイス)	33
サブウーファーの音量を調節する	33
音声と映像のずれを調節する	34

DTS:X再生中にセリフの音量を調節する	35
----------------------------	----

BLUETOOTH®機能で音楽／ 音声を聞く

モバイル機器の音楽を聞く	36
テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く	39

ネットワーク機能で音楽／ 音声を聞く

ホームネットワークでパソコンの音楽を聞く	42
Sony Music Centerでモバイル機器の音楽を聞く	43
Chromecast built-inを使う	45
Spotifyを使う	46
MUSIC SERVICEボタンを使う (ミュージックサービス)	47
ワイヤレスマルチルーム対応の他機器とつなぐ (ワイヤレスマルチルーム)	48

さまざまな機能／設定を使う

スピーカーの設定をする	49
サブウーファーとワイヤレス接続をする (セキュアリンク)	50
圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度で再生する (DSEE HX)	52
2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)	52
本体のボタンが動作しないようにする	53

表示窓とBLUETOOTHランプの明るさ を調整する（本体表示）	54
スタンバイ時の待機電力を おさえる	55
テレビのリモコン信号を本機を通して テレビに送る	55
HDMI機器制御機能を使う	56
“プラビアリンク”を使う	59
設定メニューを使う	61
オプションメニュー一覧	70

困ったときは

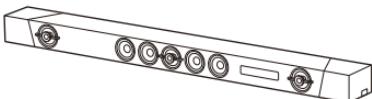
困ったときは	71
初期化する	81

その他

主な仕様	82
各スタンバイモードの設定値による 消費電力	85
再生できる音声ファイルの種類	86
入力できる音声フォーマット	87
入力できる映像フォーマット	88
BLUETOOTH無線技術について	90
ソフトウェア使用許諾契約書	92
安全のために	96
使用上のご注意	102
保証書とアフターサービス	106
索引	107

箱の中身を確かめる

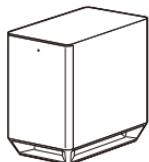
- バースピーカー (1)



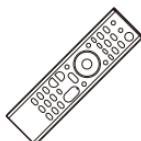
- グリル (1)



- サブウーファー (1)



- リモコン (1)



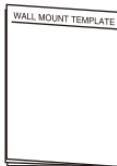
- 単4形マンガン乾電池 (2)



- HDMIケーブル（プレミアムハイスペードHDMIケーブル（イーサネット対応）) (1)



- 壁掛けテンプレート (1)



- スタートガイド



- 取扱説明書



本機でできること

「テレビの音声を聞く」(28 ページ)

「つないだ機器の音声を聞く」(28 ページ)



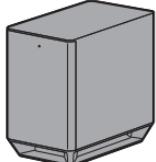
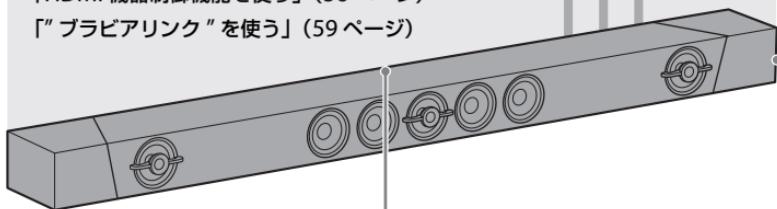
ブルーレイディスク™レコーダー、
ケーブルテレビ (CATV) ボックス
または衛星放送チューナーなど

テレビや他機器をつなぐ

(スタートガイド (別紙) または「アナログ入力
端子にテレビやポータブルオーディオ機器をつ
なぐ」(21 ページ) をご覧ください。)

「HDMI 機器制御機能を使う」(56 ページ)

「“ブラビアリンク”を使う」(59 ページ)



「Spotify を使う」(46 ページ) *

「MUSIC SERVICE ボタンを使う (ミュージック
クサービス)」(47 ページ)

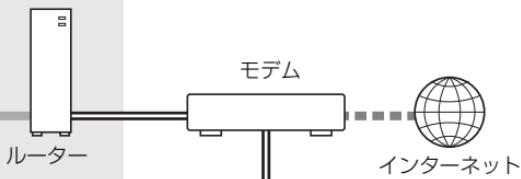
* 本機で再生するには、Spotify Premiumアカウントが必要です。

「サブウーファーとワイヤレス接続を
する (セキュアリンク)」(50 ページ)

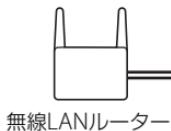


「USB 機器の音楽を聞く」
(29 ページ)

「有線でネットワークにつなぐ」
(22 ページ)



「無線でネットワークにつなぐ」
(23 ページ)



「ホームネットワークでパソコン
の音楽を聞く」(42 ページ)



「モバイル機器の音楽を聞く」(36 ページ)
「Sony | Music Center でモバイル機器の音楽
を聞く」(43 ページ)



「テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで
聞く」(39 ページ)



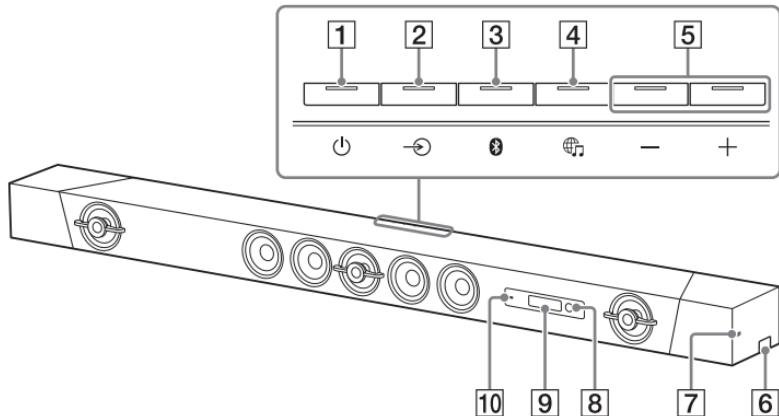
「色々な部屋で音楽を聞く (ワイヤレス
スマルチルーム)」(48 ページ)

各部の名称とはたらき

本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

本体（バースピーカー）

正面



① ⏪ (電源) ボタン

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

② ⏴ (入力切換) ボタン (13、28ページ)

③ BLUETOOTH PAIRING (ペアリング) ボタン (36ページ)

④ 🎵 (ミュージックサービス) ボタン (47ページ)

⑤ + / - (音量) ボタン

⑥ ⌂(USB) 端子 (AV周辺機器用) (29ページ)

⑦ Nマーク (38ページ)

NFC機能を使うときは、NFC機能対応機器をここにタッチします。

⑧ リモコン受光部

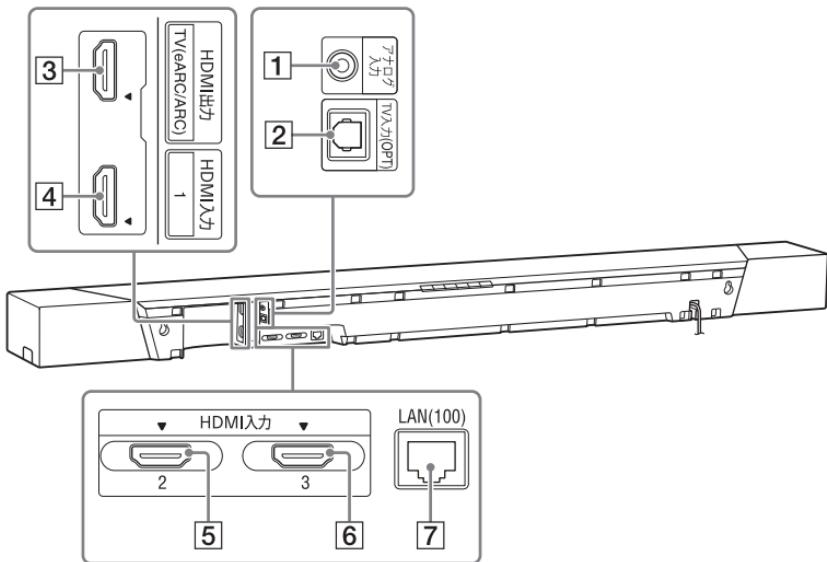
リモコンを本体の受光部に向けて操作してください。

⑨ 表示窓

⑩ BLUETOOTHランプ

- 青色で速く点滅：ペアリング待ち受け中
- 青色で点滅：BLUETOOTH接続待機中
- 青色で点灯：BLUETOOTH接続完了

背面



① アナログ入力端子

声フォーマット」(87ページ)、仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

② TV入力 (OPT) (光デジタル) 端子

④ HDMI入力 1端子

仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

③ HDMI出力 (TV (eARC/ARC)) 端子

⑤ HDMI入力 2端子

仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

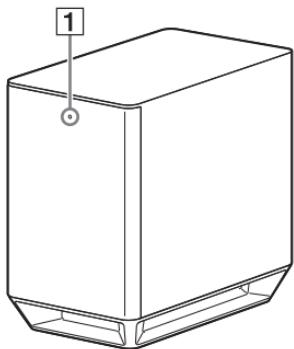
HDMI入力端子のあるテレビをHDMIケーブルでつなぎます。本機はeARCおよびARCに対応しています。ARCとはHDMIケーブルを通して、テレビの音声をテレビのHDMI端子から本機などのAV機器に送る機能です。eARCはこのARCを拡張したもので、ARCでは伝送できなかったオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMの伝送が可能になります。eARC機能については「eARC対応テレビとつなぐ」(20ページ)、対応している音声フォーマットについては「入力できる音

⑥ HDMI入力 3端子

仕様や接続について詳しくは「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

⑦ LAN (100) 端子

サブウーファー



① 入／スタンバイランプ

- 赤色で点灯：本機と未接続
- 緑色で点灯：本機と接続中
- オレンジ色で点灯：セキュアリンク機能を使って本機と接続中
- 緑色で点滅：本機と接続待機中
- オレンジ色で点滅：セキュアリンク機能を使って本機と接続待機中
- 消灯：スタンバイ状態

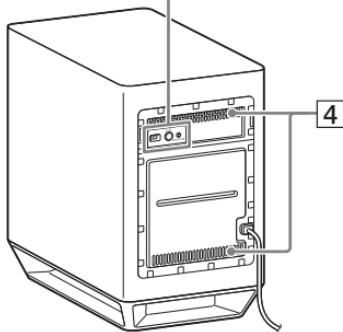
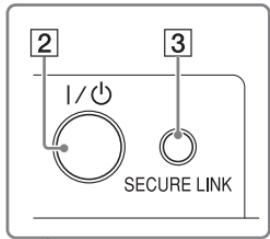
② I/Ø (入／スタンバイ) ボタン

サブウーファーの電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

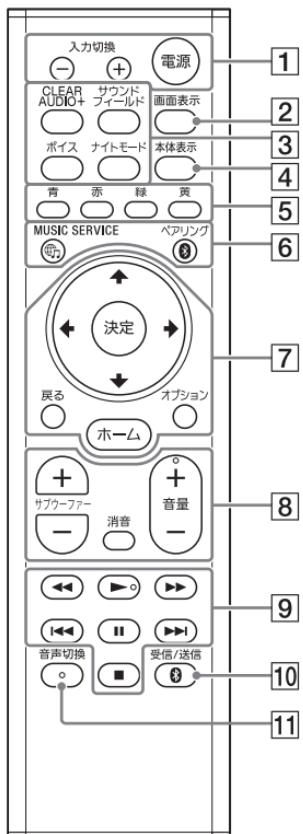
③ SECURE LINK (セキュアリンク) ボタン (50ページ)

④ 通風孔

安全のためふさがないようにしてください。



リモコン



① 入力切換+/-ボタン (13、28ページ)

電源ボタン

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

② 画面表示ボタン**

再生情報をテレビ画面に表示します。テレビ入力の場合は表示されません。

③ CLEAR AUDIO+ボタン (31ページ)

サウンドフィールドボタン (31ページ)

ボイスボタン (33ページ)

ナイトモードボタン (32ページ)

④ 本体表示ボタン (54ページ)

⑤ カラーボタン (青/赤/緑/黄)

各種メニューへショートカットできます。

⑥ MUSIC SERVICE (ミュージックサービス) ボタン (47ページ)

BLUETOOTHペアリングボタン (36ページ)

⑦ オプションボタン (34、70ページ)**

オプションメニューをテレビ画面に表示します。テレビ入力の場合は表示されません。

戻るボタン (13ページ)

↑/↓/↔/↗ボタン (13ページ)

決定ボタン (13ページ)

ホームボタン (13ページ)

⑧ 消音ボタン

音を一時的に消します。

音量+*/-ボタン

音量を調節します。

サブウーファー+/-ボタン

サブウーファーの音量を調節します。

⑨ 再生操作ボタン

◀◀/▶▶ (早戻し/早送り) ボタン

早戻しや早送りをします。

◀◀/▶▶ (前へ/次へ) ボタン

前または次のトラック／ファイルの先頭に進みます。

▶ (再生) ボタン*

再生を開始したり、再生を再開(つづき再生)します。

■ (一時停止) ボタン

一時停止または再生を再開します。

■ (停止) ボタン

再生を停止します。

⑩ BLUETOOTH受信/送信ボタン (40ページ)

⑪ 音声切換ボタン* (52ページ)

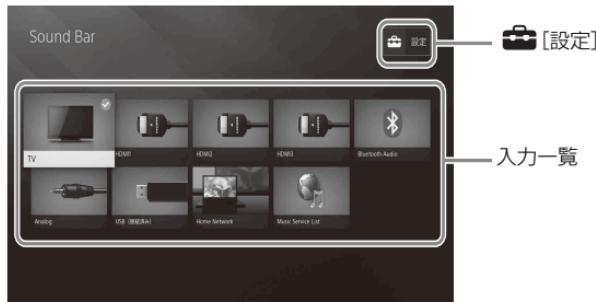
ンが働きません。またオンスクリーンディスプレイ(OSD)も表示されません。4K映像フォーマットについて詳しくは、「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

* 音声切換ボタン、▶ (再生) ボタン、音量+ボタンには、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

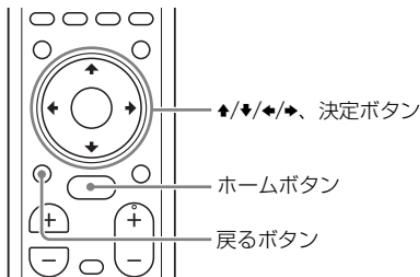
** HDR信号や4K映像フォーマットを視聴中は、オプションボタンと画面表示ボタ

ホームメニューの使いかた

本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつないで、本機のホームメニューをテレビ画面に表示することができます。ホームメニューで、 [設定] を選んでさまざまな調整をしたり、入力一覧から視聴したい機器やサービスを選んだりすることができます。



ホームメニューを使う



1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 [設定] または入力一覧の項目を↑/↓/←/→ボタンを押して選び、決定ボタンを押す。

選んだ入力または設定メニューに表示が切り換わります。

前の画面に戻るには戻るボタンを押します。

[次のページへつづく](#)

入力一覧

入力名	説明
[TV]	テレビの音声を出力します。(28ページ)
[HDMI1]	HDMI入力1端子につないだ機器の音声を出力します。(28ページ)
[HDMI2]	HDMI入力2端子につないだ機器の音声を出力します。(28ページ)
[HDMI3]	HDMI入力3端子につないだ機器の音声を出力します。(28ページ)
[Bluetooth Audio]	BLUETOOTH機能でつないだ機器の音声を出力します。(36ページ)
[Analog]	アナログ入力端子につないだ機器の音声を出力します。(28ページ)
[USB]	USB機器の音楽を再生します。(29ページ)
[Home Network]	ネットワークにつないだ機器の音楽を再生します。(42ページ)
[Music Service List]	インターネットのミュージックサービスの操作ガイドを表示します。(47ページ)

[設定] メニュー

「設定メニューを使う」(61ページ) をご覧ください。

ちょっと一言

入力は入力切換+/-ボタンを繰り返し押しして選ぶこともできます。

本書の手順の記載について

本書では、本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつないだ状態で、テレビ画面に表示されたホームメニューをリモコンで操作する手順を記載しています。

このページ以降は、**↑/↓/↔/→**ボタンと決定ボタンを使ってテレビ画面の項目を選ぶ操作の手順を以下のように簡略化して記載します。

例：ホームメニューで [設定] を選ぶ。

↑/↓/↔/→ボタンを押して選び、決定ボタンを押す操作を「選ぶ」と記載します。

例：ホームメニューで [通信設定] → [ネットワーク設定] → [有線LAN設定] を選ぶ。

↑/↓/↔/→ボタンを押して選び、決定ボタンを押す操作を繰り返す場合、選ぶ項目を→でつなげて記載します。

ちょっと一言

- リモコンのボタン名と本体のボタン名が同じ名称の場合は、本体のボタンで同じ操作ができます。
- [--] カッコの中に書かれている文字はテレビ画面に、「--」カッコの中に書かれている文字は表示窓に表示されます。

接続と準備をする

基本の接続と準備

スタートガイド（別紙）をご覧ください。

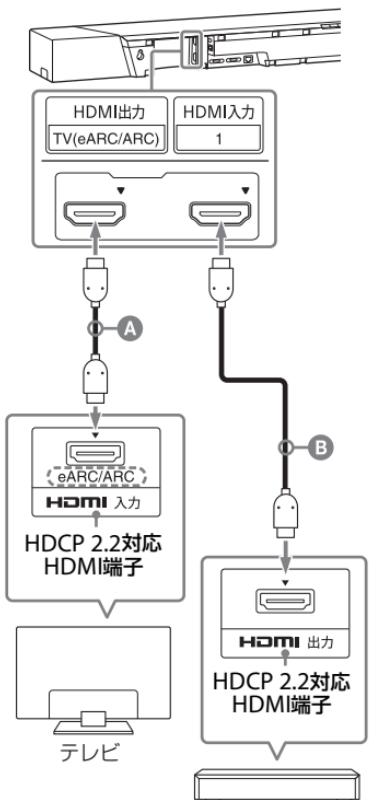
4Kテレビと4K対応機器をつなぐ

本機のHDMI入力端子1～3はすべて4K映像フォーマットやHDCP2.2に対応しています。

著作権保護された4K映像コンテンツを見る場合は、それぞれの機器のHDCP 2.2対応HDMI端子同士をつなぎます。

著作権保護された4K映像コンテンツはHDCP 2.2対応のHDMI端子につながないと視聴できません。

テレビのHDCP2.2対応HDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表記がある場合



- Ⓐ HDMIケーブル（付属）
- Ⓑ HDMIケーブル（別売）
4K映像フォーマット対応のHDMIケーブルを使用してください。詳しくは「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

1 お使いのテレビで、どのHDMI入力端子がHDCP2.2に対応しているかを確認する。

テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 テレビのHDCP2.2対応HDMI入力端子と本体のHDMI出力端子をHDMIケーブル(付属)でつなぐ。
テレビとの接続は完了です。

3 4K対応機器のHDMI出力端子(HDCP2.2対応)と本体のHDMI入力端子をHDMIケーブル(別売)でつなぐ。

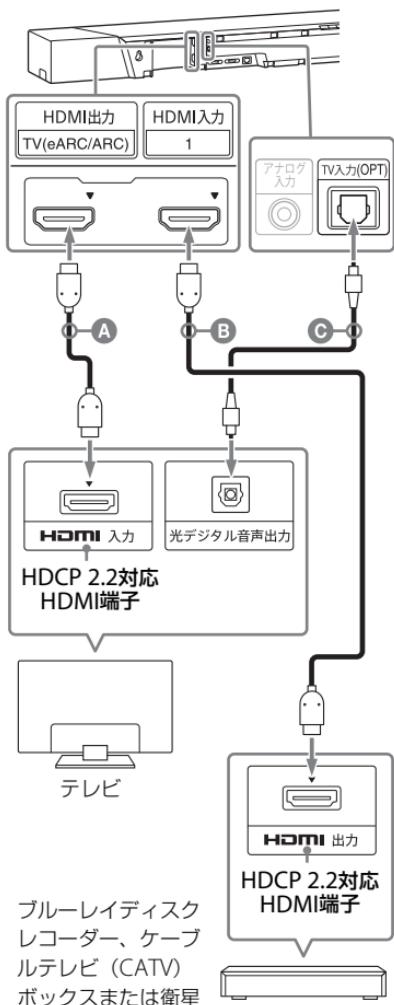
お使いの4K対応機器のHDMI出力端子がHDCP2.2に対応しているかは、機器の取扱説明書をご覧ください。

他機器との接続は完了です。

テレビのHDCP2.2対応 HDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表記がない場合

テレビのHDCP2.2対応HDMI入力端子がeARCまたはARCに対応していない場合は、本機からテレビの音声が出力されません。

その場合はテレビの光デジタル音声出力端子と本体のTV入力(OPT)端子を光デジタル音声ケーブル(別売)でつないでください。



Ⓐ HDMIケーブル（付属）

Ⓑ HDMIケーブル（別売）

4K映像フォーマット対応のHDMIケーブルを使用してください。詳しくは「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

Ⓒ 光デジタル音声ケーブル（別売）

4K映像コンテンツを見るための設定をする

4K映像コンテンツを見るために、つないだ4Kテレビや4K対応機器に合わせた設定を行います。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [本体設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] を選ぶ。

4 お好みの設定を選ぶ。

- [標準フォーマット]（お買い上げ時の設定）：本機につないだ機器とテレビが標準的なフォーマット信号をサポートしているとき、この設定を選びます。
- [拡張フォーマット]：本機につないだ機器とテレビが4K 60p 4:4:4などの高精細なフォーマット信号をサポートしているとき、この設定を選びます。

[HDMI信号フォーマット] の設定と、対応映像フォーマット信号、使用できるHDMIケーブルについて詳しくは、「入力できる映像フォーマット」(88ページ)をご覧ください。

ご注意

- ご使用のテレビによっては、テレビ側のHDMI出力設定変更が必要になる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- [拡張フォーマット] を選んだ後に画面が表示されない場合は、[標準フォーマット] に設定してください。

eARC対応テレビ とつなぐ

本機はeARC（Enhanced Audio Return Channel）に対応しています。eARCは、HDMI 2.1で規格化された新機能です。従来のARC（Audio Return Channel）で対応しているオーディオフォーマットに加え、最新のオーディオフォーマットもサポートしています。

eARCに対応したテレビと本機をHDMIケーブルでつなぐことにより、ARCでは伝送できなかったDolby Atmos - Dolby TrueHDやDTS:Xなどのオブジェクトオーディオや、マルチチャンネルLPCMを楽しむことができます。

eARC対応テレビとの接続方法は、スタートガイド（別紙）をご覧ください。

eARC機能を使うための準備をする

1 本機のHDMI出力端子の表記が「ARC」の場合、ソフトウェアアップデートを行う（62ページ）。

HDMI出力端子の表記が「eARC/ARC」の場合はeARC機能に対応しています。

2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

4 [本体設定] → [HDMI設定] → [eARC] → [入] を選ぶ。

eARC機能が有効となり、eARC対応テレビにつないでいるときは、eARC機能が働きます。

ARC対応テレビ（eARC非対応のテレビ）につないでいるときは、ARC機能が働きます。

ご注意

- 手順4で設定メニューに「eARC」が表示されない場合、ソフトウェアアップデートを行ってください（62ページ）。
- 「eARC」を「入」に設定したときは、テレビのeARC設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

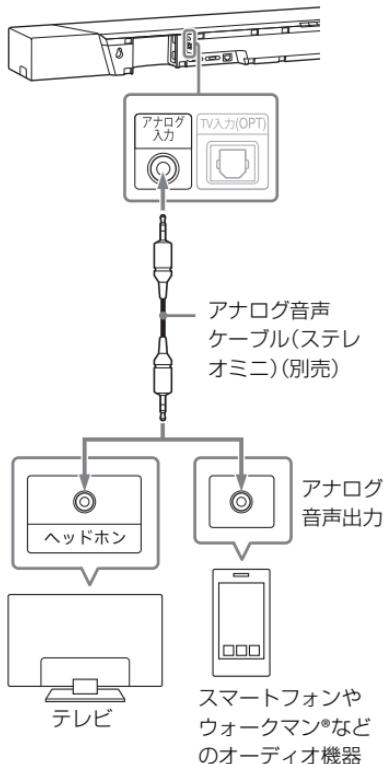
アナログ入力端子 にテレビやポータブルオーディオ機器をつなぐ

以下の機器の音声を聞く場合は、本機のアナログ入力端子につなぎます。

- HDMI端子や光デジタル出力端子がないテレビ
- スマートフォンやウォークマン®などのポータブルオーディオ機器

ご注意

テレビのヘッドホン端子が音声出力端子として使用できる場合は、テレビの音声出力設定を確認してください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

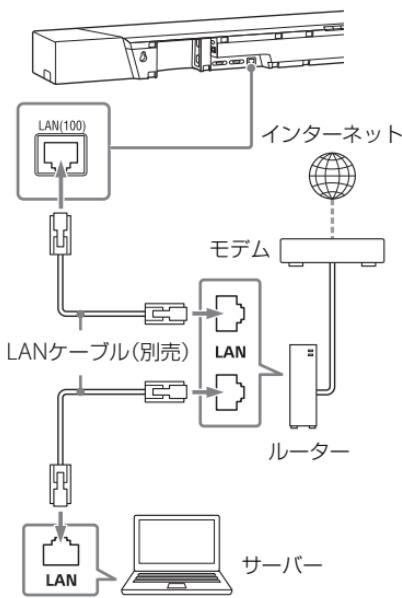


有線でネットワー クにつなぐ

ご家庭のネットワークに本機とコンピューターをLANケーブルでつないで、ホームネットワークの準備をします。

パソコンやルーターとLANケーブルでつなぐ

次のイラストは本機とパソコンをホームネットワークにつなぐ配置例です。



ご注意

- 本機とサーバーは同一のネットワークにつないでください。

- 本製品につなぐルーター等は電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているものをつないでください。

ちょっと一言

LANケーブルはシールドタイプのストレートケーブル（別売）をお使いください。

ネットワーク情報を自動取得してつなぐ

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。
設定メニューが表示されます。
- 3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [有線LAN設定] を選ぶ。
- 4 [自動取得] を選ぶ。
ネットワーク設定が開始され、ネットワークの設定状態が表示されます。↑/↓ボタンを押して情報を閲覧し、→ボタンを押します。
- 5 [接続診断] を選ぶ。
ネットワーク接続が開始されます。詳しくは画面に表示されるメッセージをご覧ください。

固定IPアドレスを使用してつなぐ

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [有線LAN設定] を選ぶ。

4 [手動] を選ぶ。

5 画面の指示にしたがって設定する。

ネットワーク設定が開始され、ネットワークの設定状態が表示されます。↑/↓ボタンを押して情報を見出し、→ボタンを押します。

6 [接続診断] を選ぶ。

ネットワーク接続が開始されます。詳しくは画面に表示されるメッセージをご覧ください。

無線でネットワークにつなぐ

お使いの無線LANルーターに本機とコンピューターをWi-Fiでつないで、ホームネットワークの準備をします。

ご注意

本機とサーバーは同一のネットワークにつないでください。

WPSボタンでつなぐ

無線LANルーター（アクセスポイント）がWi-Fi Protected Setup（WPS）に対応しているときは、簡単にネットワーク設定ができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [無線LAN設定] → [Wi-Fi Protected Setup™(WPS)] を選ぶ。

4 [開始] を選ぶ。

5 アクセスポイントのWPSボタンを押す。

ネットワーク接続を開始します。

ネットワーク名 (SSID) を選んでつなぐ

無線LANルーターがWPSに対応していない場合は、次の情報をあらかじめご確認ください。

- ネットワーク名 (SSID) *

- セキュリティーキー
(パスワード) **

* SSID (Service Set Identifier) は具体的なアクセスポイントを確認する名前です。

** この情報は、無線LANルーター／アクセスポイントのラベル、取扱説明書、ワイヤレスネットワークを設定した人、またはインターネットサービスプロバイダーから得ることができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [通信設定] → [ネットワーク設定] → [無線LAN設定] を選ぶ。

テレビ画面にネットワーク名のリストが表示されます。

4 ネットワーク名 (SSID) を選ぶ。

5 ソフトウェアキーボードでセキュリティーキー (またはパスワード) を入力し、[Enter] を選ぶ。

ネットワーク接続を開始します。

固定IPアドレスを使用してつなぐ

「ネットワーク名 (SSID) を選んでつなぐ」の手順4で「新しい接続先の登録」→「手動登録」を選んでから、画面の指示にしたがって操作してください。

PIN方式でつなぐ

「ネットワーク名 (SSID) を選んでつなぐ」の手順4で「新しい接続先の登録」を選んでから、「(WPS) PIN方式」を選びます。

Sony | Music Centerアプリを使用してつなぐ

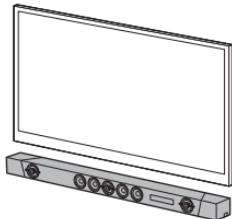
Sony | Music Centerアプリを使って、お使いのモバイル機器と同一のネットワークに本機をつなぐことができます。

詳しくはSony | Music Centerアプリのヘルプまたは下記のURLをご覧ください。

<http://www.sony.net/smca/>

壁に取り付ける

次の手順で本体を取り付けることができます。



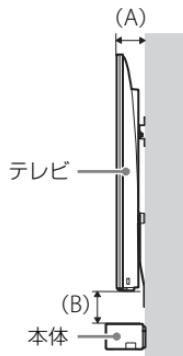
ご注意

- ・壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。バースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- ・販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- ・取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、ソニーは一切責任を負いません。

本体の取付位置について

本体からは天井に向けてサラウンド音声が出力されます。

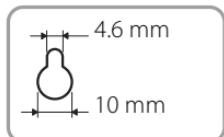
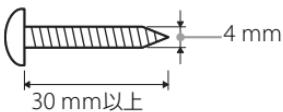
本体からの音声がテレビに妨げられないよう、下記の目安値を参考にして本体を取り付ける位置を決めてください。



壁掛けテレビの奥行き	テレビから本体までの寸法
(A) 66 mm未満	50 mm以上
66 mm～ 100 mm未満	100 mm以上
100 mm以上	200 mm以上

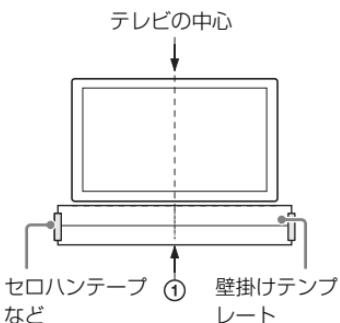
本体を取り付ける

- 1 本体背面の穴に合う市販のネジを用意する。



本体背面の穴

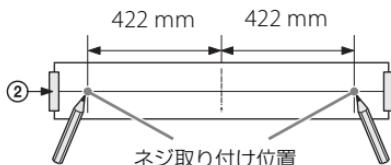
- 2 壁掛けテンプレート（付属）を壁に貼る。



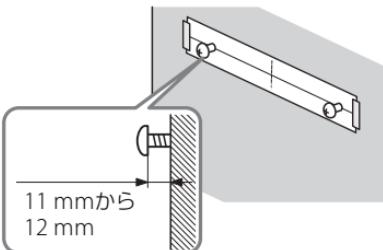
- 1 壁掛けしたテレビの中心に壁掛けテンプレートのTVセンターライン（①）を合わせる。
- 2 「本体の取付位置について」（25ページ）を参照して壁掛けテンプレートの高さを決め、壁掛けテンプレートを市販のゼロハンテープなどで貼る。

- 3 下図のように壁掛けテンプレートのネジ取付ライン（②）上にネジ取り付け位置の印を付ける。

下図の寸法をスケールで測り、鉛筆などで印を付けます。



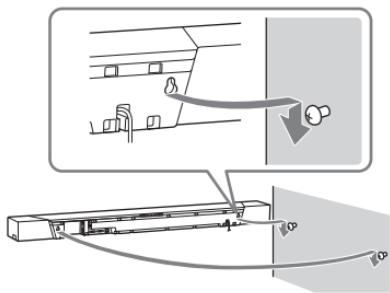
- 4 印をつけた所にネジをとめる。



- 5 壁掛けテンプレートを取り外す。

6 本体背面の穴をネジにかけ る。

本体背面の穴とネジの位置を合わ
せてから、2か所同時に取り付け
てください。



ご注意

壁掛けテンプレートはしっかり伸ばして
貼ってください。

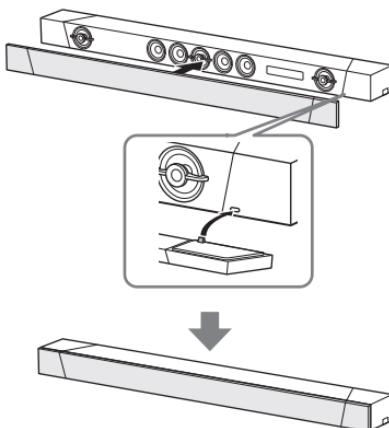
グリルを取り付け る

付属のグリルをスピーカー部分に装着
することで、スピーカー部分を保護す
ることができます。

ハイレゾ音源をより良い音質でお楽しみ
いただくためには、グリルをつけないと
お使いになることをおすすめします。

グリルを本体前面に対して平 行に取り付ける。

グリルの突起部を本体の穴に差し込み
ます。



ちょっと一言

グリルはマグネットによって固定されます。

音声を聞く

テレビの音声を聞く

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [TV] を選ぶ。

3 テレビのリモコンでお好みの番組を選ぶ。

テレビ放送の画面に切り換わり、本機からテレビの音声が出力されます。

4 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。

ご注意

テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

リモコンの入力切換+/-ボタンで [TV] を選ぶこともできます。

つないだ機器の音声を聞く

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで他機器をつないだ入力端子を選ぶ。

他機器の画面に切り換わり、本機から他機器の音声が出力されます。

[Analog] を選んだ場合は、[Analog] 画面が表示されます。

3 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。

ちょっと一言

リモコンの入力切換+/-ボタンで入力を選ぶこともできます。

ホーム画面で表示される入力端子の名前を変更する

ホーム画面で表示される入力端子 [HDMI1]、[HDMI2] または [HDMI3] の名前を変更することができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで

[HDMI1]、[HDMI2] または [HDMI3] にカーソルを合わせ、オプションボタンを押す。

オプションメニューが表示されます。

3 [HDMI入力ラベル設定] を選ぶ。**4 表示される機器名を選ぶ。**

機器名は以下から選ぶことができます。

- [BD Player]
- [DVD Player]
- [Cable Box]
- [Satellite]
- [GAME]
- [PC]

5 決定ボタンを押す

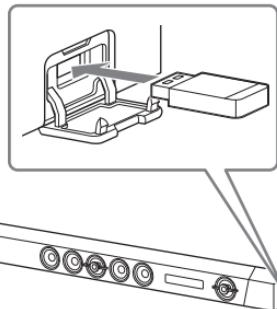
ちょっと一言

入力端子の名前を変更すると、表示されるアイコンも変わります。

USB機器の音楽を聞く

USB機器の音楽ファイルを再生できます。

再生可能なファイルについては「再生できる音声ファイルの種類」(86ページ)をご覧ください。

1  (USB) 端子にUSB機器を差し込む。**2 ホームボタンを押す。**

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで [USB (接続済み)] を選ぶ。**4 曲が保存されているフォルダー → 曲を選び。**

音楽が再生され本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。

ご注意

操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。

ちょっと一言

オプションメニューからさまざまな操作ができます（70ページ）。

サウンド効果を選ぶ

音源に合わせたサウンド効果に設定する（サウンドフィールド）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選びます。



1 サウンドフィールドボタンを押す。

テレビ画面にサウンドフィールドのメニューが表示されます。

2 ボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

サウンド フィールド名	説明
[ClearAudio+]	再生するコンテンツに合ったおすすめの音設定に自動的に切り換わります。
[3Dサラウンド]	映像・音楽といったジャンルを問わず、部屋中を音が飛び回り、全方位から音に包まれる体験を全身で楽しむことができます。
[映画]	後方へ回り込む音や音場に包まれる没入感を体験することができます。映画を楽しむときに適しています。
[ミュージック]	楽器や声の生々しさやつやなどがきめ細かく表現され、音楽をより感動的に楽しむときに適しています。
[ゲーム スタジオ]	物体の移動感と距離感を忠実に再現しながら、セリフが明瞭に聞こえることでゲームの世界に没入できます。
[スポーツ]	スタジアムで観戦しているかのような雰囲気を体験しながらも、解説者のナレーションもクリアに視聴することができます。

サウンド効果を選ぶ

次のページへつづく

サウンド フィールド名	説明
[スタンダード]	テレビ番組の音声をクリアに視聴することができます。人の声がクリアに聞こえるので、ニュースなどを視聴する際に適しています。

ご注意

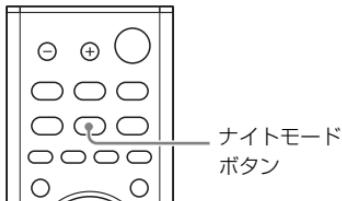
- ワイヤレスマルチルーム機能または Chromecast Built-inをお使いの場合や、[Bluetoothモード] を [送信] に設定している場合 (64ページ) は、サウンドフィールド機能は使えません。
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にサウンドフィールドのメニューは表示されません。
- [サウンドエフェクト] を [切] に設定している場合は、サウンドフィールド機能は使えません。
- サウンドフィールドが [ミュージック] 以外のときは、バーチャルサラウンド処理が働きます。ただし、ソースがマルチチャンネルでない場合は、バーチャルサラウンド処理が働かない場合があります。

ちょっと一言

- CLEAR AUDIO+ボタンを押して [ClearAudio+] を選ぶこともできます。
- オプションメニューからサウンドフィールドを選ぶこともできます (70ページ)。

深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ (ナイトモード)

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。



1 ナイトモードボタンを押す。

テレビ画面にナイトモードが表示されます。

2 ボタンを繰り返し押して、ナイトモードを選ぶ。

モード	説明
[入]	ナイトモード機能を有効にします。
[切]	ナイトモード機能を無効にします。

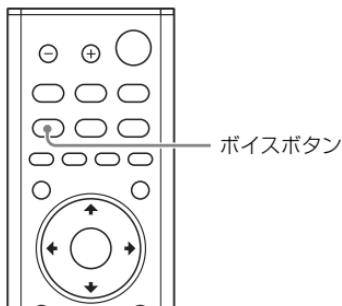
ご注意

本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的に [切] に設定されます。

ちょっと一言

オプションメニューから [ナイトモード] を選ぶこともできます (70ページ)。

セリフを聞きやすくする（ボイス）



1 ボイスボタンを押す。

テレビ画面にボイスモードが表示されます。

2 ボタンを繰り返し押して、 お好みのボイスモードを選 ぶ。

モード	説明
[Up Off]	標準
[Up 1]	セリフを強調し、聞こえやすくします。
[Up 2]	セリフの強調に加え、高域の周波数も強調します。

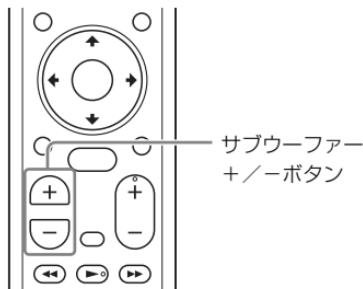
ちょっと一言

オプションメニューから【ボイス】を選ぶ
こともできます（70ページ）。

サブウーファーの 音量を調節する

サブウーファーは低音を再生するためのスピーカーです。

サブウーファーの音量を調節することによって、低音を調節できます。



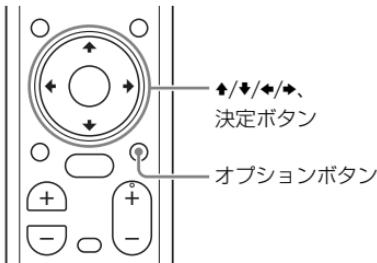
サブウーファー+/-ボタン を押す。

ご注意

テレビ放送などの低音の少ない入力では、
サブウーファーの音が聞こえにくいくことがあります。

音声と映像のずれを調節する

つないだテレビや機器によっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、音声を遅らせることでずれを調節することができます。



テレビを視聴しているときに調節する

1 オプションボタンを押す。

本機の表示窓に「SYNC」と表示されます。

2 →ボタンまたは決定ボタンを押す。

表示窓に音声と映像のずれを調節する時間が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。

「0 ms」～「300 ms」の間で25 msecきざみで調節できます。

4 オプションボタンを押す。

元の表示に戻ります。

他機器を視聴しているときに調節する

1 オプションボタンを押す。

テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

2 【画音同期調整】を選ぶ。

3 ←/→ボタンで音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。

0 msec～300 msecの間で25 msecきざみで調節できます。

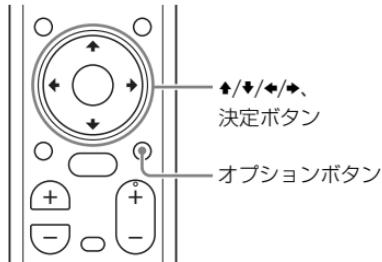
ちょっと一言

テレビに音声と映像のずれを調節する機能がある場合は、そちらをご使用ください。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

DTS:X再生中にセリフの音量を調節する

セリフの音量を調節することにより、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でもセリフを聞き取りやすくなります。この機能はDTS:Xダイアログコントロールに対応したコンテンツを再生しているときに働きます。

入力によって調節のしかたが違います。



サウンド効果を選ぶ

3 オプションボタンを押す。

元の表示に戻ります。

AV機器で再生中に調節する

1 オプションボタンを押す。

テレビ画面にオプションメニューが表示されます。

2 [DTS ダイアログ調整] を選ぶ。

3 ↔/→ボタンでセリフの音量レベルを調節し、決定ボタンを押す。

0.0 dB～6.0 dBの間で1.0 dBきざみで調節できます。

テレビで再生中に調節する

1 オプションボタンを押し、↑/↓ボタンで本体表示窓に「DIALOG」を表示させて決定ボタンを押す。

2 ↑/↓ボタンでセリフの音量レベルを調節し、決定ボタンを押す。

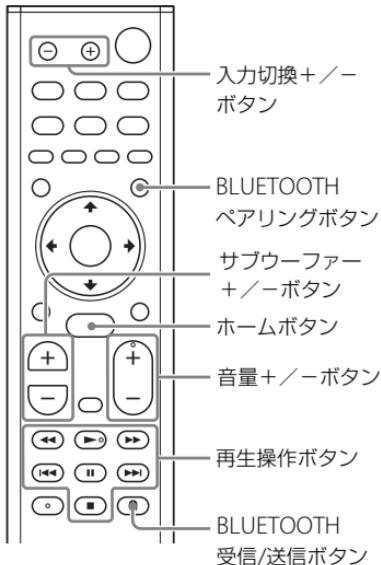
0.0 dB～6.0 dBの間で1.0 dBきざみで調節できます。

BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く

モバイル機器の音楽を聞く

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器とBLUETOOTH機能でつながりで、モバイル機器に保存しているさまざまな音楽をワイヤレスで聞くことができます。

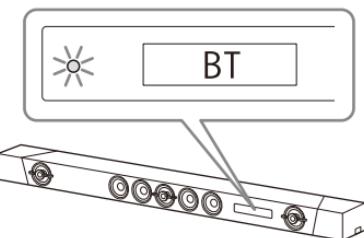
モバイル機器とBLUETOOTH機能でつながる場合は、テレビの電源を入れることなく、本機のリモコンだけでつなぐことができます。



モバイル機器とペアリング（機器登録）して音楽を聞く

1 リモコンのBLUETOOTHペアリングボタンを押す。

本機がペアリングモードになり、表示窓に「BT」と表示され、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



2 モバイル機器側のBLUETOOTH設定画面でBLUETOOTH機能をオンにし、機種検索をして、「HT-ST5000」を選ぶ。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

3 本機のBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。
- リモコンの再生操作ボタンを使ってコンテンツの再生や一時停止ができます。

BLUETOOTH機能の接続状態を確認する

接続の状態	BLUETOOTHランプの状態
ペアリング待ち受け中	青色に速く点滅
接続待機中	青色に点滅
接続完了	青色に点灯
未接続	消灯

ちょっと一言

- BLUETOOTH接続完了後、お使いの機器によってアプリケーションのインストールを促す画面が表示されることがあります。表示に従うと、本機を操作できるアプリケーションSony | Music Centerをインストールできます。
Sony | Music Centerについては、「Sony | Music Centerでモバイル機器の音楽を聞く」（43ページ）をご覧ください。
- 2台目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

ペアリング（機器登録）済みのモバイル機器の音楽を聞く

1 モバイル機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

2 入力切換+/-ボタンを繰り返し押して表示窓に「BT」と表示させる。

最後につないだモバイル機器と自動的につながります。

3 本機のBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。
- リモコンの再生操作ボタンを使ってコンテンツの再生や一時停止ができます。

モバイル機器の接続を解除する

次のいずれかを行ってください。

- ・モバイル機器のBLUETOOTH機能をオフにする。
- ・リモコンのBLUETOOTHペアリングボタンを押す。
- ・本機またはモバイル機器の電源を切る。

ご注意

「ペアリング（機器登録）済みのモバイル機器の音楽を聞く」の手順2で入力切換+/-ボタンを押しても表示窓に「BT」と表示されない場合は、リモコンのBLUETOOTH受信/送信ボタンを一回押してください。

ちょっと一言

接続が完了しなかった場合、モバイル機器側で、「HT-ST5000」を選んでください。

ワンタッチ（NFC）でモバイル機器につないで聞く

NFC機能対応のスマートフォンやタブレットなどのモバイル機器を本体のNマークにタッチするだけで、本機の電源が自動的に入り、BLUETOOTH機能のペアリング（機器登録）や接続が行われます。

対応する機器

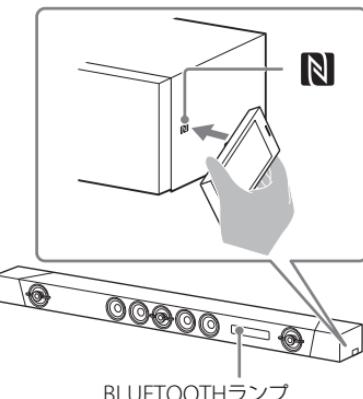
NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したスマートフォン、タブレットやミュージックプレーヤー
(対応OS : Android™ 2.3.3以降、Android 3.xを除く)

1 モバイル機器のNFC機能をオンにする。

2 モバイル機器のNマーク、またはフェリカマークを本体のNマークにタッチする。

モバイル機器が振動してモバイル機器にメッセージが表示されるまでタッチし続けてください。

モバイル機器の画面の指示にしたがって操作すると、本機とモバイル機器とのペアリングが完了します。



3 BLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- ・リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- ・リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。
- ・リモコンの再生操作ボタンを使ってコンテンツの再生や一時停止ができます。

ワンタッチで再生を止める

本体のNマークにモバイル機器をもう一度タッチします。

ご注意

- ・モバイル機器によっては、あらかじめ以下のことを行う必要があります。
 - NFC機能をオンにする。
 - Google Playから「NFC簡単接続」アプリをインストールし、アプリを起動する。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・本機のNFC機能はBLUETOOTH対応ヘッドホンでは働きません。BLUETOOTH対応ヘッドホンで音楽を聞く場合は、「テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く」（39ページ）をご覧ください。
- ・ワンタッチ機能でBLUETOOTH接続すると、[Bluetoothモード] が自動的に [受信] に変わります。ワンタッチ接続を解除しても [Bluetoothモード] は [受信] のままであります。詳しくは [Bluetooth設定]（64ページ）をご覧ください。
- ・磁力に反応して待機モードに入るスマートフォンやタブレットの場合は、ワンタッチ接続（NFC）できないことがあります。ワンタッチ接続（NFC）できないときは、BLUETOOTH機能でつないでください（36ページ）。

テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く

ヘッドホンとBLUETOOTH機能でつないで、本機につないだテレビや他機器の音声をヘッドホンで聞くことができます。

ヘッドホンとペアリング（機器登録）して聞く

1 BLUETOOTH対応ヘッドホンをペアリングモードにする。

ペアリング（機器登録）については、ヘッドホンに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

4 [Bluetooth設定] → [Bluetoothモード] → [送信] を選ぶ。

本機がBLUETOOTH送信モードになります。

5 本機の [Bluetooth設定] → [機器リスト] からヘッドホンの機器名を選ぶ。

BLUETOOTH接続が完了すると、[Bluetooth機器を接続しました]と表示されます。(つないだ機器名も表示されます。)

[機器リスト] にヘッドホンの機器名が見つからない場合は、[検索] を選んでください。

6 ホームメニューに戻り、お好みの入力を選ぶ。

選んだ入力に画面が切り換わり、表示窓に「BT TX」と表示され、ヘッドホンから音声が出力されます。

本機から音は出なくなります。

入力の選びかたについては、

「ホームメニューを使う」(13ページ) をご覧ください。

7 音量を調節する。

最初にヘッドホンを適度な音量にします。ヘッドホンにつないだ状態では、本体の+/-ボタンやリモコンの音量+/-ボタンで、ヘッドホンの音量を調節できます。

ペアリングした機器情報を削除する

- 「ヘッドホンとペアリング（機器登録）して聞く」の手順1から5を行う。
- ヘッドホンの機器名を選び、オプションボタンを押す。
- 【削除】を選ぶ。

- テレビ画面の指示にしたがってヘッドホンを機器リストから削除する。

ペアリング（機器登録）済みのヘッドホンで聞く

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 入力を選ぶ。

入力の選びかたについては、「ホームメニューを使う」(13ページ) をご覧ください。

3 ヘッドホンのBLUETOOTH機能をオンにする。

4 リモコンのBLUETOOTH受信/送信ボタンを押す。

[Bluetoothモード] が [送信] に切り換わり、表示窓に「BT TX」と表示されます。

最後につないだヘッドホンに自動的につながり、ヘッドホンから音声が出力されます。

本機から音は出なくなります。

5 音量を調節する

ヘッドホンの音量を適度な音量にします。

本機のリモコンの音量+/-ボタンで音量を調節することもできます。

ヘッドホンの接続を解除する

- 次のいずれかを行ってください。
- ヘッドホンのBLUETOOTH機能をオフにする。
 - リモコンのBLUETOOTH受信/送信ボタンを押す。
 - 本機またはヘッドホンの電源を切る。
 -  [設定] → [Bluetooth設定] → [機器リスト] で接続中のヘッドホンの機器名を選ぶ。機器名の [接続中] の文字が表示されなくなります。

ヘッドホンの接続について

- BLUETOOTH対応ヘッドホンによっては音量を調節できない場合があります。
- [Bluetoothモード] が [切] または [送信] になっているときは [Bluetooth Audio] が無効になります。
- [Bluetooth Audio] の入力を選んでいるときは [Bluetoothモード] を [送信] にすることはできません。また、リモコンのBLUETOOTH受信/送信ボタンでの切り替えはできません。
- BLUETOOTH機器は9台まで登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台の中で接続履歴の最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。

- BLUETOOTH機器は [機器リスト] に15台まで表示することができます。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンに音声を送信している場合は、オプションメニューのサウンド効果の設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力されないことがあります。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンがSCMS-T非対応の場合は、音声を出力できません。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、本機側の再生に比べて受信側での音声・音楽再生が遅れます。
- 送信される音声が、AACコーデック、LDACコーデックを使用するか変更することができます (65ページ)。

ネットワーク機能で音楽／ 音声を聞く

ホームネットワー クでパソコンの音 楽を聞く

ホームネットワーク上のパソコンに保
存した曲を本機で聞くことができます。

テレビ画面に表示した本機のホームメ
ニューや、スマートフォンやタブレット
などのモバイル機器でSony | Music
Centerを操作して、パソコンの音楽
を再生します。

ホームネットワークの準備 をする

1 ネットワークにつなぐ。

「有線でネットワークにつなぐ」
(22ページ) または「無線でネット
ワークにつなぐ」(23ページ)
をご覧ください。

2 パソコンをネットワークにつなぐ。

操作方法はパソコンの取扱説明書
をご覧ください。

3 パソコンを設定する。

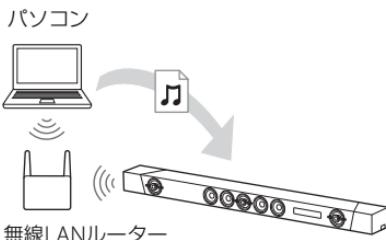
ホームネットワークでパソコンを
使うには、パソコンをサーバーと
して設定する必要があります。設

定方法はパソコンの取扱説明書を
ご覧ください。

ちょっと一言

本機のネットワークの接続状況は、 [設定] → [通信設定] → [ネットワークの設定確認] で確認できます。

パソコンの音楽を聞く



1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表
示されます。

2 ホームメニューで [Home Network] を選ぶ。

テレビ画面にホームネットワーク
上の機器名が表示されます。

3 ホームネットワーク上のパ ソコン名 → 曲が保存され ているフォルダー → 曲を 選ぶ。

音楽が再生され本機から音声が出
力されます。

4 音量を調節する。

- ・リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- ・リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（33ページ）。

ちょっと一言

オプションメニューからさまざまな操作ができます（70ページ）。

Sony | Music Centerでパソコンの音楽を聞く



スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器にインストールしたSony | Music Centerを操作してパソコンの曲を再生します。Sony | Music Centerについては、「Sony | Music Centerを使ってできること」（43ページ）、または下記のURLをご覧ください。

<http://www.sony.net/smca/>

Sony | Music Centerでモバイル機器の音楽を聞く

Sony | Music Centerを使ってできること

Sony | Music Centerとは、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から、Sony | Music Center対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

Sony | Music Centerについて詳しくは、下記のURLをご覧ください。
<http://www.sony.net/smca/>

お使いのモバイル機器にSony | Music Centerをインストールすると、以下のことができます。

本機のサウンド設定

お好みの音質やソニーおすすめの音質「ClearAudio+」を簡単に設定できます。

ミュージックサービスの利用

ミュージックサービス*を利用するための初期設定を行います。

* ミュージックサービスによって、利用できる時期や契約の有無が異なります。本機のアップデートが必要な場合があります。

ミュージックサービスでChromecast

built-inをご利用になる場合は、
「Chromecast built-inを使う」(45ページ) をご覧ください。

ホームネットワーク上の音楽を楽しむ
ホームネットワーク上のパソコンや
サーバーなどに保存された音楽を再生
できます。

USB機器の音楽を楽しむ

本機のUSB端子につないだUSB
機器の音楽を再生できます。

ご注意

機器によってSony | Music Centerができる
操作は異なります。アプリの仕様および画
面デザインは予告なく変更する場合があり
ます。

4 Sony | Music Centerの画 面の指示にしたがって操作 する。

ご注意

- Sony | Music Centerをお使いになる前
に、[Bluetoothモード] が [受信] に
なっていることをご確認ください (64
ページ)。
- Sony | Music Centerは最新版をご利用く
ださい。

ちょっと一言

- NFC機能を使って本機とモバイル機器を
つなぐことができます (38ページ)。
- ネットワークでつなぐ場合は、本機と同
一のネットワークにモバイル機器をつな
いでください。

Sony | Music Centerを使 う

1 モバイル機器に無料アプリ Sony | Music Centerをイン ストールする。

お使いのモバイル機器で、
Google Play (Playストア) または
App StoreでSony | Music
Centerを検索して、インストール
してください。

2 本機とモバイル機器を BLUETOOTH機能 (36ペー ジ) またはネットワーク機 能でつなぐ (22ページ)。

3 Sony | Music Centerを起 動する。

Chromecast built-inを使う

Chromecast built-inを使うことで、Chromecast対応アプリから音楽コンテンツを選び、本機または本機が含まれるグループで再生することができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [Music Service List] を選ぶ。

ミュージックサービスのリストがテレビ画面に表示されます。

3 [Chromecast built-in] を選ぶ。

画面の指示にしたがって、本機で Chromecast built-inを使うための設定を行ってください。

設定を行うと、[高速起動／ネットワークスタンバイ] が [入] になり、本機がスタンバイ状態でもすばやく音楽を再生することができます（67ページ）。

4 本機をつないでいる同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiでつなぐ。

5 モバイル機器に Chromecast対応アプリをインストールする。

6 Chromecast対応アプリを起動し、キャストアイコンをタップして、本機または本機が含まれているグループを選ぶ。



7 Chromecast対応アプリで音楽を選び、再生する。

本機で音楽が再生されます。

Spotifyを使う

Spotifyアプリから音楽を選び、本機で再生することができます。本機で再生するにはSpotify Premiumアカウントが必要です。

“Spotify Connect”機能を有効にする

- 1 本機をつないでいる同一のネットワークにモバイル機器をWi-Fiでつなぐ。
- 2 モバイル機器にSpotifyアプリをインストールする。
- 3 Spotifyアプリを起動し、Spotify Premiumアカウントでログインする。
- 4 Spotifyアプリで音楽を選び、再生する。
- 5 SpotifyアプリでConnectアイコンをタップして、本機を音声出力デバイスとして選ぶ。

本機で音楽が再生されます。



スタンバイ状態のときもすばやく音楽を再生する

[高速起動／ネットワークスタンバイ]を【入】に設定してください（67ページ）。

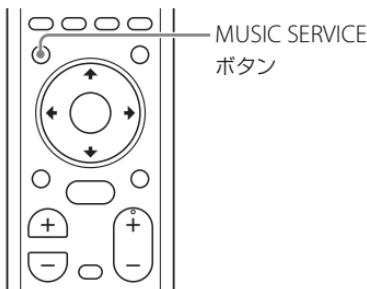
モバイル機器で再生した音楽のつづきを再生する

- 1 MUSIC SERVICEボタンを押す。

本機でSpotifyの音楽を一度再生していると、Spotifyで聞いていた音楽のつづきが再生されます。詳しくは「MUSIC SERVICEボタンを使う（ミュージックサービス）」（47ページ）をご覧ください。

MUSIC SERVICEボタンを使う（ミュージックサービス）

ミュージックサービスを楽しむには、本機をインターネットにつないでいる必要があります。



MUSIC SERVICEボタンを押す。

ミュージックサービスのリストがテレビ画面に表示されます。

本機でSpotifyの音楽を一度再生していると、Spotifyで聞いていた音楽のつづきが再生されます。詳しくは「Spotifyを使う」（46ページ）をご覧ください。

ご注意

- つづきが再生されない場合は、本機で最後に再生したプレイリストが再生されます。
- 本機で再生するにはSpotify Premiumアカウントが必要です。

ちょっと一言

- ミュージックサービスをアップデートするには、ミュージックサービスのリスト画面でオプションボタンを押し、[サービス更新] を選びます。
- ミュージックサービスのリストは、ホームメニューの [Music Service List] を選ぶ、または本体の Btn ボタンを押して表示することもできます。

ワイヤレスマルチルーム対応の他機器とつなぐ（ワイヤレスマルチルーム）

ワイヤレスマルチルーム対応のワイヤレススピーカーを組み合わせて使用することにより、いろいろな部屋で音楽を再生することができます。

色々な部屋で音楽を聞く (ワイヤレスマルチルーム)



ご家庭のWi-Fiネットワークを利用して、以下の機器の音楽や音声をさまざまな部屋で高音質で楽しめます。

- ・ミュージックサービスの音楽
- ・パソコンやスマートフォンに保存した音楽

- ・本機の [TV]、[HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] または [Analog] 入力の音声*

* 本機につないだ機器の音声を楽しめます。これらの入力の音声を再生すると、他のスピーカーの音声と同期するため、本機の音声は映像より遅れて出力されます。映像と音声のずれが気になる場合は、オプションボタンを押し、[マルチルームグループ同期調整] を [切] にしてください。(テレビ入力の場合は、リモコンのオプションボタンを押してから、↑/↓ボタンで本体表示窓に「M.SYNC」を表示させて決定ボタンを押し、↑/↓ボタンで「OFF」を選んで決定ボタンを押してください。) [切] になると、本機の映像と音声は同期しますが、他のスピーカーの音声は遅れて聞こえます。

操作は、モバイル機器にインストールしたSony | Music Centerを使って行います。

Sony | Music Center対応機器を複数使うには、それらを同じ無線LANにつなぐ必要があります。

Sony | Music Centerで設定する
Sony | Music Centerのヘルプの指示にしたがって設定してください。

ご注意

ワイヤレスマルチルーム機能は、本機につないだBLUETOOTH機器の音楽には使用できません。

ちょっと一言

Sony | Music Centerについて詳しくは、「Sony | Music Centerを使ってできること」(43ページ)をご覧ください。

スピーカーの設定をする

サラウンドを十分に楽しむために、視聴位置からスピーカーまでの距離やスピーカーの音量を設定します。
お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで【設定】を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [音声設定] → [スピーカー設定] を選ぶ。

[スピーカー設定] 画面がテレビ画面に表示されます。

4 スピーカー設定を行う。

↑/↓ボタンと決定ボタンを使って、以下から設定したい項目を選び、スピーカーの設置環境に合わせて設定値を設定します。

【距離】

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
0 m～10 mの範囲で設定できます
(0.1 mきざみ)。

[フロント]：フロントスピーカーの距離を設定します。

[サブウーファー]：サブウーファーの距離を設定します。

【レベル】

スピーカーの音量レベルを調節します。

-6.0 dB～6.0 dBの範囲で設定できます (0.5 dBきざみ)。

[フロント]：フロントスピーカーのレベルを設定します。

[ハイト]：ハイツスピーカーのレベルを設定します。

[サブウーファー]：サブウーファーのレベルを設定します。

【テストトーン】

使用できるスピーカー確認のために、スピーカーからテストトーンを出力します。

[切]：テストトーンは出力されません。

[入]：各スピーカーから順番にテストトーンを出力します。

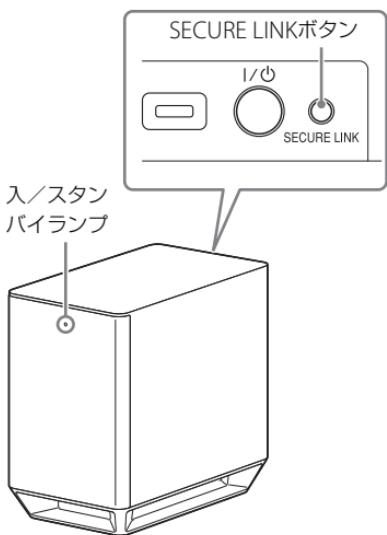
【天井の高さ】

本機が設置された部屋の天井の高さを設定します。

1m～5 mの範囲で設定できます (0.1 mきざみ)。

サブウーファーと ワイヤレス接続を する（セキュアリ ンク）

本体とサブウーファーをワイヤレスでつなぐときに、セキュアリンク機能を使ってワイヤレス通信する機器を特定することができます。自宅や近隣で複数のワイヤレスサウンド機器を使用しているときに起こる混線を防ぐことができます。



1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [本体設定] → [ワイヤレスサブウーファー接続設定] → [セキュアリンク] を選ぶ。

[セキュアリンク] 画面がテレビ画面に表示されます。

4 [入] を選ぶ。

5 サブウーファー背面の SECURE LINKボタンを押す。

サブウーファーの入／スタンバイランプがオレンジ色に点滅します。

1分以内に次の手順に進んでください。

6 [開始] を選ぶ。

リンクの設定を開始します。

元の画面に戻るには、[中止] を選びます。

7 画面の指示に従ってリンクの設定を完了する。

サブウーファーの入／スタンバイランプがオレンジ色に点灯します。

ご注意

- ・[セキュアリンクの設定ができませんでした。] メッセージが表示されたら、画面の指示にしたがってください。

- [Bluetoothモード] が [送信] になっていて、BLUETOOTH機器が本機につながれている場合は、サブウーファーとのワイヤレス接続はできません。

ご注意

他機器のワイヤレス通信の周波数を変えることで、本機のワイヤレス通信が安定することもあります。詳しくは、他ワイヤレス機器の取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレス通信が不安定なとき

無線LANやBLUETOOTH機器など複数のワイヤレス機器を使いの場合、本機のワイヤレス通信が不安定になることがあります。この場合、[ワイヤレス周波数設定] を設定することで改善することができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [本体設定] → [ワイヤレスサブウーファー接続設定] → [ワイヤレス周波数設定] を選ぶ。

4 設定を選ぶ。

- [自動] (お買い上げ時の設定) : 通常はこの設定にします。本機は自動的にワイヤレス通信に最適な周波数 выбирает.
- [1]、[2]、[3] : ワイヤレス通信に固定のチャンネルを選びます。より通信が安定する周波数を選んでください。

圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度で再生する(DSEE HX)

圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、録音スタジオやコンサート会場にいるような臨場感を再現します。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [音声設定] → [DSEE HX] を選ぶ。

4 [入] を選ぶ。

ご注意

- ・サウンドフィールドが [ClearAudio+] または [ミュージック] のときに働きます(31ページ)。
- ・44.1 kHz または 48 kHz の 2 チャンネルデジタル入力信号入力時に働きます。
- ・アップスケール後のサンプリング周波数／ビット深度は、最大 96 kHz / 24 bit となります。
- ・DSD 信号時には無効となります。
- ・テレビ、HDMI またはアナログ入力が選択している場合は、この機能は働きません。
- ・Chromecast built-in 使用中は、この機能は働きません。

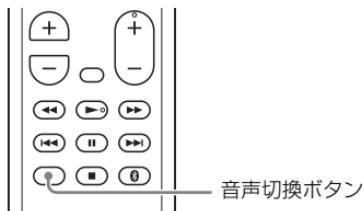
2か国語放送の音声を切り換える(音声切換)

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているAAC音声方式で放送されています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル(別売)でつなぎます。

お使いのテレビのHDMI端子がeARCまたはARC機能(58ページ)に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。



1 音声切換ボタンを押す。

表示窓に音声信号が表示されます。

2 ボタンを繰り返し押して、音声信号を選ぶ。

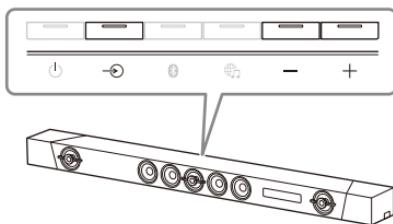
音声信号	説明
「MAIN」	主音声を再生します。
「SUB」	副音声を再生します。
「MN/SB」	主音声と副音声をミックスして再生します。

ご注意

2か国語放送でない場合に音声切換ボタンを押すと、表示窓に「NOT USE」が表示されます。

本体のボタンが動作しないようにする

子供のいたずらなどによる誤操作を防ぐため、チャイルドロック機能を使って、本体のボタンを動作しないようにすることができます。



さまざまな機能／設定を使う

本体の \ominus ボタンを押しながら、順番にー、+、ーボタンを押す。

表示窓に「LOCK」が表示され本体のボタンが動作しなくなります。

リモコンでのみ本機の操作ができます。

チャイルドロックをキャンセルする

本体の \ominus ボタンを押しながら、順番にー、+、ーボタンを押します。

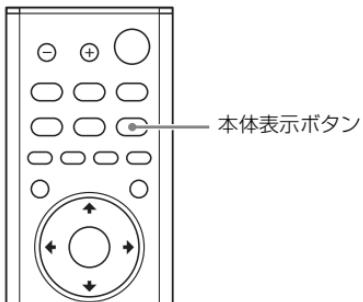
表示窓に「UNLCK」が表示され、チャイルドロックがキャンセルされます。

ご注意

チャイルドロック機能は本体の \cup ボタンには働きません。

表示窓とBLUETOOTHランプの明るさを調整する (本体表示)

表示窓とBLUETOOTHランプの明るさを調節できます。



1 本体表示ボタンを押す。

表示窓に本体表示モードが表示されます。

2 ボタンを繰り返し押して、 本体表示モードを選ぶ。

モード	説明
「Bright」	表示窓とBLUETOOTHランプは明るく点灯します。
「Dark」	表示窓とBLUETOOTHランプは暗く点灯します。
「Off」	表示窓は消灯します。

ご注意

「Off」を選ぶと表示窓が消灯します。いずれかのボタンを押すと点灯し、約10秒間操作をしないとまた消灯になります。表示窓が消えない場合もありますが、その場合の明るさは「Dark」と同じです。

スタンバイ時の待機電力をおさえる

スタンバイ時の消費電力をおさえるには、以下の設定をします。

- [Bluetoothスタンバイ] を [切] にする (65ページ)。
- [スタンバイスルー] を [切] にする (66ページ)。
- [高速起動／ネットワークスタンバイ] を [切] にする (67ページ)。
- [リモート起動] を [切] にする (69ページ)。

テレビのリモコン信号を本機を通してテレビに送る

本体がテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなる場合があります。このようなときは本機のIRリピーター機能を有効にしてください。テレビのリモコン信号が本体の背面からテレビのリモコン受光部に送信され、リモコン操作が可能になります。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [本体設定] → [IRリピーター] を選ぶ。

テレビ画面に [IRリピーター] 画面が表示されます。

4 [入] を選ぶ。

ご注意

- テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから、IRリピーター機能を有効にしてください。操作できるときにIRリピーター機能を有効にすると、テレビのリモコンからの直接の信号と本機で中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。

[次のページへつづく](#)

- [IRリピーター] を [入] にした場合、テレビによっては本機能が動作しなかったり、エアコンなど他の機器のリモコンが正しく動作しなくなったりすることがあります。その場合は本体やテレビの設置位置を変えてみてください。

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能*対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブル（プレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）、ハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応））（別売）でつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作が簡単にできます。HDMI機器制御機能では下記の機能が使えます。

- 電源オフ連動
- システムオーディオコントロール
- eARC／ARC（Enhanced Audio Return Channel／Audio Return Channel）
- ワンタッチプレイ
- テレビリモコンからのメニュー操作
- HDMI信号スタンバイスルーの省電力設定

ご注意

これらの機能は他社製の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

* HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

HDMI機器制御機能の準備をする

本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【HDMI機器制御】を【入】にしてください(66ページ)。お買い上げ時の設定は【入】です。
本機につないだテレビと機器のHDMI機器制御機能の設定を有効にしてください。

ちょっと一言

ソニー製のテレビをご使用の場合は、テレビのHDMI機器制御(“ブリッピングリンク”)機能を有効にすると、本機のHDMI機器制御機能も自動的に有効になります。設定が完了すると、表示窓に「DONE」が表示されます。

電源オフ連動

テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【電源オフ連動】を【する】または【自動】にしてください(66ページ)。お買い上げ時の設定は【自動】です。

ご注意

機器の状態によっては、本機につないだ機器の電源が切れない場合があります。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

前回テレビをみたときに、音声が本機のスピーカーから出力されていた場合は、テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入ります。

テレビのメニューからも操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビで二画面機能を使用しているときに、本機の入力で【TV】、【HDMI1】、【HDMI2】、【HDMI3】以外を選んだ場合は、音声はテレビのスピーカーから出力されます。二画面機能を無効にすると、音声は本機のスピーカーから出力されます。
- テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。テレビ画面に表示された数字は表示窓の数字と異なる場合があります。
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

eARC／ARC (Enhanced Audio Return Channel／Audio Return Channel)

テレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子に本機をつないだ場合は、光デジタル音声ケーブルをつながずにテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【TV音声入力モード】を【自動】にしてください。(66ページ)。【自動】に設定すると、eARCまたはARCの音声が優先されます。お買い上げ時の設定は【自動】です。

ご注意

- ・テレビのeARC機能またはARC機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・eARCまたはARCに対応していないテレビの場合は、光デジタル音声ケーブル(別売)の接続が必要です。(スタートガイド(別紙)参照)

ワンタッチプレイ

本機につないだ機器(ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4など)のコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、本機の入力は再生した機器の入力に切り替わり、音声は本機のスピーカーから出力されます。

ご注意

- ・本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【スタンバイスルー】が【入】または【自

動】に設定されていて、かつ、前回テレビをみたときに、音声がテレビのスピーカーから出力されていた場合は、機器のコンテンツを再生しても本機の電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されます(66ページ)。

- ・テレビによっては、再生途中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。

テレビリモコンからのメニュー操作

テレビのリンクメニューから本機を選んで、本機を操作することができます。

この機能はテレビがリンクメニューに対応している場合に使えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ・テレビのリンクメニューで、本機は【プレイヤー】としてテレビに認識されます。
- ・テレビによっては、一部の操作が行えないことがあります。

HDMI信号スタンバイスルーニ省電力設定

HDMI信号スタンバイスルーニ(66ページ)とは、本機の電源を入れることなく、本機につないだ機器の音声や映像をテレビで楽しむことができる機能です。

- 【本体設定】→【HDMI設定】→【スタンバイスルーニ】を【自動】に設定すると、本機の待機電力を削減すること

ができます（66ページ）。お買い上げ時の設定は【自動】です。

ご注意

本機につないだ機器の映像がテレビに表示されない場合は、【スタンバイスルー】を【入】に設定してください。他社製のテレビにつないだ場合にこの設定をおすすめします。

“プラビアリンク”を使う

“プラビアリンク”対応の機器では、HDMI機器制御機能の他に下記の機能も使うことができます。

- オートジャンルセレクター
- シーンセレクト連動
- オーディオ機器コントロール

ご注意

これらの機能はソニー独自の機能です。他社製の機器では使えません。

オートジャンルセレクター

視聴している番組情報（EPG情報）を検出し、本機のサウンドフィールド（31ページ）をその番組のジャンルに合わせて自動的に切り換え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。この機能はテレビがオートジャンルセレクターに対応している場合に使えます。詳しくはテレビや機器の取扱説明書をご覧ください。

サウンドフィールドを
[ClearAudio+]にしてください（31ページ）。

本機の【音声設定】→【オートジャンルセレクター】を【入】にしてください（64ページ）。お買い上げ時の設定は【入】です。

ご注意

番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるときに音が途切れことがあります。

シーンセレクト連動

テレビのシーンセレクトの設定に応じて、本機のサウンドフィールドを自動的に切り替えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

サウンドフィールドを [ClearAudio+] にしてください（31 ページ）。

オーディオ機器コントロール

オーディオ機器コントロール対応テレビをご使用の場合、テレビの入力を切り換えることなく、本機の設定、サウンドフィールドの設定、入力切り替えなどができます。

この機能はテレビがインターネットにつながれている場合に使えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

設定メニューを使う

画像や音声などのさまざまな設定をおこなうことができます。

設定メニューの説明では、お買い上げ時の設定に下線がついています。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 お好みの設定を選ぶ。

設定メニュー	できること
[ソフトウェアアップデート]	本機のソフトウェアを最新のバージョンにアップデートします。(62ページ)
[映像設定]	テレビの種類にあわせて映像の設定をします。(62ページ)
[音声設定]	つないだ機器にあわせて音声の設定をします。(63ページ)
[Bluetooth設定]	BLUETOOTH機能の詳細設定をします。(64ページ)
[本体設定]	本体に関する設定をします。(66ページ)
[通信設定]	インターネットとホームネットワークの詳細設定をします。(68ページ)
[入力スキップ設定]	入力切換ボタンで表示される入力の設定をします。(69ページ)
[かんたん設定]	本体の基本的な設定をします。(69ページ)
[設定初期化]	本体の設定を初期化します。(69ページ)

【ソフトウェアアップデート】

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードすることにより、最新の機能を楽しめます。

アップデート情報については下記のホームページをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/home-theater/>

ご注意

- ・アップデートが終了するまでに約1時間かかることがあります。
- ・ネットワーク経由でのアップデートはインターネット環境が必要になります。
- ・ソフトウェアアップデート中は、表示窓に「UPDT」と表示されます。アップデートが終了すると、本機は自動的に再起動します。アップデート中は、本機の電源を切ったり、本機やテレビの操作をしてください。ソフトウェアアップデート終了までお待ちください。
- ・自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、[自動アップデート]を[入]に設定してください（67ページ）。ソフトウェアアップデートの内容によっては、[自動アップデート]が[切]に設定していてもアップデートが実行される場合があります。

【ネットワーク経由でアップデート】

ネットワークを使用してシステムのソフトウェアをアップデートします。画面の指示にしたがって操作してください。ネットワークがインターネットに

つながれていることを確認してください。

【USBメモリーからアップデート】

USBメモリーを使用してソフトウェアをアップデートします。ソフトウェアのアップデートフォルダ名が「UPDATE」になっていることを確認してください。

【映像設定】

【出力映像解像度設定】

[自動]：つないだテレビや他機器の解像度に合わせた解像度で出力します。
[480p]：解像度480pで出力します。

【HDMI映像出力フォーマット】

[自動]：他機器の種類を自動的に検出し、それに適合するカラー設定をします。
[RGB]：HDCP対応のDVI端子のある機器とつなぐときに選びます。

【Video Direct】

[HDMI1] または [HDMI2]、
[HDMI3] 入力が選ばれているときは、本機のオンスクリーンディスプレイ（OSD）を無効にできます。ゲームをしているときに、ゲーム画面だけを楽しめます。

[入]：OSDを無効にします。情報は画面に表示されません。また、オブ

ションボタンと画面表示ボタンは使えなくなります。

[切]：サウンドフィールドの設定を変えたときなどにのみ、情報を画面に表示します。

【音声設定】

【スピーカー設定】

サラウンドを十分に楽しむために、視聴位置からスピーカーまでの距離やスピーカーの音量を設定します。詳しくは「スピーカーの設定をする」(49ページ)をご覧ください。

【DSEE HX】

この機能はサウンドフィールドが [ClearAudio+] または [ミュージック] のときに働きます。

[入]：圧縮音源やCDなどをハイレゾ相当の高解像度音源にアップスケーリングし、圧縮により失われがちな高音域をクリアに再現します (52ページ)。

[切]：この機能を使いません。

【オーディオDRC】

音声信号のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量の幅）を圧縮して、小さな音を聞きとりやすくします。

[自動]：音声を自動的に圧縮します。

[入]：レコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジで再生します。

[切]：この機能を使いません。

【音声出力】

本機の音声出力方法を選べます。

[スピーカー]：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーからのみ出力します。

[スピーカー+HDMI]：音声を本機とテレビのスピーカーから出力します。再生される音声は、テレビ側の環境（チャンネル数、サンプリング周波数など）に合わせたものになります。テレビのスピーカーがステレオの場合は、マルチチャンネルのソースもステレオで出力されます。

【注意】

[HDMI1]、[HDMI2] または [HDMI3] 入力で 〔音声出力〕 を 〔スピーカー+HDMI〕 に設定しているときは、オンスクリーンディスプレイ（OSD）が表示されません。また、オプションボタンと画面表示ボタンが働きません。

【サウンドエフェクト】

サウンドフィールドなどのサウンド効果の入／切を設定できます。

〔サウンドフィールド入〕：すべてのサウンド効果を有効にします。

[切]：サウンド効果を切にします。サンプリング周波数の上限を設定たくないときに選びます。

【音声アップミックス設定】

優先されるアップミックス処理を設定します。アップミックスは音声ソースのチャンネル数を拡張します。

[Dolby Surround]：ドルビーサラウンドアップミキサーが従来型の音声コンテンツをマルチチャンネルに拡張し、ハイツスピーカーを含めた、マルチチャンネルスピーカーで再生できます。

[Neural:X]：Neural:XはDTSの新しいアップミキサー技術で、ステレオ、5.1チャンネル、7.1チャンネルの映画や音楽をマルチチャンネルに拡張し、ハイツスピーカーを含めた、マルチチャンネルスピーカーで再生できます。

ご注意

- 入力がドルビーフォーマットの場合は[Dolby Surround]、DTSフォーマットの場合は[Neural:X]が優先されます。
- サウンドフィールドによっては、ハイツスピーカーの音が生成されない場合があります。

【オートジャンルセレクター】 (59ページ)

この機能は[HDMI機器制御]を
[入]、サウンドフィールドを
[ClearAudio+]になると使えます。
[入]：視聴している番組情報(EPG情報)を検出し、サウンドフィールドをその番組のジャンルに合わせて自動的に切り替えます。

[切]：この機能を使いません。

⑧ [Bluetooth設定]

[Bluetoothモード]

BLUETOOTH機器の音声を本機で聞いたり、BLUETOOTH対応ヘッドホンで本機の音声を聞くことができます。

[受信]：本機が受信モードになり、モバイル機器からの音声を本機で出力します。

[送信]：本機が送信モードになり、本機の音声がBLUETOOTH対応ヘッドホンへ送信され、本機の入力を切り換えると表示窓に「BT TX」と表示されます。

[切]：本機のBLUETOOTH機能がオフになり、[Bluetooth Audio]入力が選べません。

ご注意

ワントッチ(NFC)でつなぐと、
[Bluetoothモード]が[切]になっていてもBLUETOOTH接続することができます。*
*スマートフォン、タブレット、ウォークマン®などのモバイル機器のみ

[機器リスト]

[Bluetoothモード]が[送信]になっているときに、接続履歴および検出されたBLUETOOTH機器のリストが表示されます。

[Bluetoothスタンバイ]

本機がスタンバイ状態でも、本機能を「入」にすることにより、BLUETOOTH機器で本機の電源を入れることができます。この機能は[Bluetoothモード]が[受信]か[送信]に設定されているときに使えます。

[入]：登録されたBLUETOOTH機器とつなぐと自動的に本機の電源が入りります。

[切]：この機能を使いません。

[Bluetooth Codec-AAC]

この機能は[Bluetoothモード]が[受信]か[送信]に設定されているときに使えます。

[入]：AACコーデックが有効になります。

[切]：AACコーデックが無効になります。

ご注意

- お使いの機器がAACをサポートしている場合にAACを有効にすると、高音質で楽しめます。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンをつないでいるときは、設定を変更することができません。

[Bluetooth Codec-LDAC]

この機能は[Bluetoothモード]が[受信]か[送信]に設定されているときに使えます。

[入]：LDACコーデックが有効になります。

[切]：LDACコーデックが無効になります。

ご注意

- お使いの機器がLDACをサポートしている場合にLDACを有効にすると、高音質で楽しめます。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンをつないでいるときは、設定を変更することができません。

[ワイヤレス再生品質]

LDAC再生のデータ転送レートを設定できます。この機能は[Bluetoothモード]が[送信]に設定された状態で、[Bluetooth Codec-LDAC]が[入]に設定されているときに使えます。

[自動]：ご使用の環境によってデータの転送速度が自動で変わります。オーディオ再生が不安定なときは、他の3つのモードをご使用ください。

[音質優先]：高ビットレートが使われます。音声は高品質で送信されますが、接続状況がよくないとき音声の再生が不安定になることがあります。

[標準]：中ビットレートが使われます。音質と安定性を両立させます。

[接続優先]：安定性が優先されます。音質は多少劣化しますが接続が安定します。接続状況が不安定なときは、この設定をおすすめします。

■[本体設定]

[ワイヤレスサブウーファー接続設定]

サブウーファーのワイヤレス接続をやり直します。詳しくは「サブウーファーとワイヤレス接続をする（セキュアリンク）」(50ページ)をご覧ください。

[IRリピーター]

[入]：テレビのリモコン信号が本体背面から送信されます（55ページ）。

[切]：この機能を使いません。
詳しくは、「テレビのリモコン信号を本機を通してテレビに送る」(55ページ)をご覧ください。

[HDMI設定]

• [HDMI機器制御] (57ページ)

[入]：HDMI機器制御機能を有効にします。HDMIケーブルでつながれた機器を相互に操作することができます。

[切]：この機能を使いません。

• [電源オフ連動] (57ページ)

この機能は [HDMI機器制御] を [入] にすると使えます。

[自動]：本機の入力がTV、
[HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3]
のときのみ、テレビの電源を切ると
本機の電源も連動して切れます。

[する]：本機の入力にかかわらず、
テレビの電源を切ると、本機の電源
も連動して切れます。

[しない]：本機の入力にかかわらず、
テレビの電源を切っても本機の
電源は連動しません。

• [スタンバイスルー] (58ページ)

この機能は「HDMI機器制御」を
[入] にすると使えます。

[自動]：本機の電源が入っていない
とき、テレビの電源が入っていれば、
本機のHDMI出力 (TV (eARC/
ARC)) 端子から信号を出力します。
[入] よりも本機の待機電力を抑える
ことができます。

[入]：本機の電源が入っていないとき、
常に本機のHDMI出力 (TV
(eARC/ARC)) 端子から信号を出力
します。他社製のテレビにつないだ
場合、この設定をおすすめします。

[切]：本機の電源が入っていないとき、
本機のHDMI出力 (TV (eARC/
ARC)) 端子から信号を出力しません。
本機につないだ機器のコンテンツを
テレビで楽しむ場合には、本機の
電源を入れてください。[入] よりも
本機の待機電力を抑えることができます。

• [TV音声入力モード] (58ページ)

本機をテレビのeARCまたはARC対応
HDMI入力端子につないでいる場合
に設定します。
[HDMI機器制御] を [入] にすると
使えます。

[自動]：テレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

[自動] に設定すると、eARCまたはARCの音声が優先されます。
 [切]：光デジタル音声ケーブルをつないだ場合は、この設定にします。

• [eARC]

本機をテレビのeARC対応HDMI入力端子につないでいるときに設定します。ARC対応テレビ（eARC非対応テレビ）につないでいるときは、この設定に関係なくARC機能が働きます。

[入]：eARC機能を有効にします。eARC対応テレビにつないでいるとき、eARC機能が働きます。

[切]：eARC機能を使いません。

ご注意

[eARC] を [入] に設定したときは、テレビのeARC設定を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

• [HDMI信号フォーマット]

入力しているHDMI信号のフォーマットを設定します。詳しくは「4K映像コンテンツを見るための設定をする」（19ページ）をご覧ください。

【高速起動／ネットワークスタンバイ】

[入]：スタンバイ状態からの起動時間を短くします。本機の電源を入れてすぐに本機を使うことができます。

[切]：この機能を使いません。

ご注意

Chromecast built-in機能を使用することに同意すると、この設定は、自動的に [入] に切り換わります。

【自動電源オフ】

[入]：何も操作されないまま約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

[切]：この機能を使いません。

【ソフトウェアアップデート通知】

[入]：本機のソフトウェア最新バージョン情報を通知します（62ページ）。

[切]：通知しません。

【自動アップデート設定】

• [自動アップデート]

[入]：ソフトウェアアップデートは選んだ「タイムゾーン」の現地時間午前2時～5時の間で、本機を使用していない間に自動的に実行されます。ただし、「高速起動／ネットワークスタンバイ」が「切」に設定されている場合は、本機の電源を切った直後に実行されます。

[切]：この機能を使いません。

• [タイムゾーン]

お住まいの地域／都市を選んでください。

ご注意

• ソフトウェアアップデートの内容によっては、「自動アップデート」が「切」に設

定されていてもアップデートが実行される場合があります。

- ・ソフトウェアアップデートはアップデートの公開から11日以内に自動的に実行されます。

[機器名]

[Bluetooth Audio] 機能を使うときには、わかりやすいように本機の名前を変えられます。ホームネットワークなどのときでもこの変更した名前が使われます。テレビ画面の説明に従い画面のキーボードを使って名前を入力してください。

[本体情報]

本機のソフトウェアバージョンと、MACアドレスを確認できます。

[ソフトウェアライセンス]

ソフトウェア使用許諾契約を表示します。

●[通信設定]

[ネットワーク設定]

あらかじめ本機をネットワークにつなぎます。

[有線LAN設定]：LANケーブルでネットワークにつなぐときは、この設定を選択します。この設定を選択すると、本機の無線LANは自動的に無効になります。

[無線LAN設定]：無線LANルーターでネットワークにつなぐときはこの設定を選択します。

ちょっと一言

詳しくは、以下のホームページの「Q&A」をご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/home-theater/>

[ネットワークの設定確認]

現在のネットワークの接続状態を表示します。

[ネットワーク接続診断]

ネットワークに正しくつながっているか、接続診断をします。

[接続サーバー設定]

つないでいるホームネットワークサーバーを表示するかどうかを設定します。

[ホームネットワーク自動アクセス許可]

[入]：新しく検出されたホームネットワークコントローラーからの自動アクセスを許可します。

[切]：この機能を使いません。

[ホームネットワークアクセス制御]

ホームネットワークコントローラーに対応している製品のリストを表示し、それぞれの製品が本機にアクセスできるかどうかの設定をします。

[外部機器からの操作]

[入]：本機をホームオートメーションコントローラーで操作できるようになります。

[切]：この機能を使いません。

[リモート起動]

[入]：ネットワークにつながっているモバイル機器を使って本機の電源を入れることができます。

[切]：この機能を使いません。

■ [入力スキップ設定]

入力切換+/-ボタンを押して入力を選ぶとき、不要な入力をスキップすることができます。

[スキップしない]：選んだ入力をスキップしません。

[スキップする]：選んだ入力をスキップします。

ご注意

[スキップする]に設定すると、ホームメニューが表示されているときに入力切換+/-ボタンを押すと、アイコンが薄く表示されます。

ちょっと一言

オプションメニューから入力スキップ設定をすることもできます（70ページ）。

● [かんたん設定]

本機の基本設定や基本的なネットワーク設定をするために「かんたん設定」を開始します。テレビ画面の指示にしたがってください。

● [設定初期化]

[出荷時設定に戻す]

各設定ごとにお買い上げ時の設定に戻します。選んだ設定のすべての項目がお買い上げ時の設定に戻るので、ご注意ください。

[個人情報の初期化]

本機に保存された個人情報を消去します。

ご注意

本機を破棄したり、譲渡、売却する場合、安全保護のためすべての個人情報を削除してください。ネットワークサービスの使用後はログアウトなど適切な処置を実行してください。

オプションメニュー一覧

オプションボタンを押すと、さまざまな設定や再生中の操作ができます。表示されるオプションは、使用状況によって異なります。

項目	できること
【画音同期調整】	映像と音声とのズレを補正します。音声出力を映像出力より遅らせます（34ページ）。
【サウンドフィールド】	サウンドフィールドの設定を切り替えます（31ページ）。
【ナイトモード】	ナイトモードを設定します（32ページ）。
【ボイス】	ボイスモードを選びます（33ページ）。
【DTS ダイアログ調整】	DTS:Xストリームの再生中にセリフの音量を調節する機能です（35ページ）。この機能により、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でもセリフを聞き取りやすくなります。この機能はDTS:Xダイアログコントロールに対応したコンテンツを再生しているときに働きます。
【入力スキップ設定】	入力切換+/-ボタンを押して入力を選ぶとき、不要な外部入力をスキップすることができます（69ページ）。
【HDMI入力ラベル設定】	ホーム画面で表示される入力端子【HDMI1】、【HDMI2】または【HDMI3】の名前を変更することができます（28ページ）。
【リピート設定】	リピートモードを設定します。
【シャッフル設定】	シャッフル再生を設定します。
【再生】／【再生停止】	再生を開始または停止します。
【はじめから再生】	タイトルを始めから再生します。
【マルチルームグループ同期調整】	ワイヤレスマルチルーム機能を使用しているとき、本機の音声を他のスピーカーの音声と同期するかを設定できます（48ページ）。

ご注意

- ・テレビ入力の場合、オプションメニューはテレビ画面に表示されません。
- ・HDR信号や4K映像フォーマットを視聴中は、オプションボタンが働きません。4K映像フォーマットについて詳しくは、「入力できる映像フォーマット」（88ページ）をご覧ください。

困ったときは

困ったときは

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

- 電源コードがしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

- 本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【HDMI機器制御】を【入】に設定してください（66ページ）。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります（56ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

- 本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【電源オフ連動】を確認してください（66ページ）。【する】に設定している場合は、本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

テレビの電源を切っても、本機の電源が切れない

- 本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【電源オフ連動】を確認してください（66ページ）。本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ったときに、本機の電源も連動させたい場合は、【する】に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります（56ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

映像

映像が出ない、正しく出力されない

- 適切な入力を選んでください（13ページ）。
- テレビの映像が出ない場合は、テレビのリモコンで見たいチャンネルを選んでください。
- 本機のHDMI入力（1/2/3）端子につないだ機器の映像が出ない場合は、つないだ機器の再生ボタンを押してください。
- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。

困ったときは

- 本体の → ボタンを押しながら、順番に +、 -、 + ボタンを押して、出力映像解像度設定を最低にしてください。
- 本機につないだ機器の映像が出ない、または正しく表示されない場合は、本機の [本体設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] を [標準フォーマット] に設定してください (19ページ)。
- HDCP 2.2 対応機器をつなぐときは、機器を HDMI 入力端子に、テレビを HDMI 出力 (TV (eARC/ARC)) 端子につないだことを確認してください。
- HDCP (Highbandwidth Digital Content Protection) に対応している機器に本機をつないでいるか確認してください。つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

HDMI入力（1/2/3）端子からの3Dコンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては 3D コンテンツが表示されない場合があります。対応している HDMI の映像フォーマットを確認してください (88ページ)。

HDMI入力（1/2/3）端子からの4K映像コンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては 4K 映像コンテンツが表示されない場合があります。テレビとビデオ機器の映像設定と機能を確認してください。
- [HDMI信号フォーマット] の設定を変更したときに、映像が出ない、または正しく表示されないことがあります

す。その場合は [標準フォーマット] に設定してください (19ページ)。

- 18Gbps に対応したプレミアムハイスピード HDMI ケーブル (イーサネット対応) (別売) またはイーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル (別売) をお使いください (88ページ)。

テレビ全体に表示されない

- ディスクに記録されている映像のアスペクト比が固定されていないか確認してください。

HDMI端子につないだ機器の映像が乱れる

- HDMI 端子につないだ機器の映像が乱れることがあります。その場合は、 [映像設定] の [Video Direct] を 「入」 に設定してください (62ページ)。

本機の電源が入っていないとき、テレビに映像と音声が出ない

- 本機の [本体設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定して、 [スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください (66ページ)。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。
- 他社製の機器で HDMI 機器制御機能に 対応している機器をつないでいる場合は、 [本体設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [入] に設定してください (66ページ)。

HDRコンテンツがハイダイナミックレンジで表示されない

- テレビまたはつないだ機器の設定を確認してください。詳しくは、テレビまたはつないだ機器の取扱説明書をご覧ください。
- 機器によっては、帯域が十分でないときにHDRコンテンツをSDRに変換することがあります。テレビとつないだ機器が18Gbpsに対応している場合は、[本体設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] を【拡張フォーマット】に設定してください(19ページ)。また、18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください(88ページ)。

音声

本機からテレビの音声が出ない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブル、光デジタル音声ケーブル、またはアナログ音声ケーブルの種類や接続を確認してください(スタートガイド(別紙)を参照)。
- テレビと本機をつないでいるケーブル類を抜き、しっかり奥まで差し込みなおしてください。続けてテレビと本機の電源コードを抜き、差し込みなおしてください。
- テレビと本機をHDMIケーブルのみでつないでいる場合は、以下を確認してください。
 - 本機がテレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子につながれている。

— テレビのHDMI機器制御機能が有効になっている。

— テレビのeARC機能またはARC機能が有効になっている。

— 本機の【HDMI機器制御】が【入】、【TV音声入力モード】が【自動】になっている(66ページ)。

- テレビがeARCに対応していない場合は、[本体設定] → [HDMI設定] → [eARC] を【切】に設定してください(67ページ)。

→ お使いのテレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、光デジタル音声ケーブル(別売)をつないでください(スタートガイド(別紙)を参照)。テレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子につないでもテレビの音声は本機から出力されません。

- 本機の入力を【TV】に切り換えてください。本機とテレビをアナログ音声ケーブル(別売)でつないでいる場合は、入力を【Analog】に切り換えてください(28ページ)。

→ 本機の音量を上げる、または消音状態を解除してください。

- テレビにつないだケーブルテレビ(CATV)ボックス/衛星放送チューナーの音声が出ない場合は、それぞれの機器を本機のHDMI入力端子につないで、本機の入力をつないだ機器の入力(HDMI1/2/3)に切り換えてください(スタートガイド(別紙)を参照)。

→ テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本

機の表示窓に「Muting」と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。

- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源が入っていないとき、テレビに映像と音声が出ない

- 本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【HDMI機器制御】を【入】に設定して、【スタンバイスルー】を【自動】または【入】に設定してください（66ページ）。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。
- 他社製の機器でHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合は、【本体設定】→【HDMI設定】→【スタンバイスルー】を【入】に設定してください（66ページ）。

本機とテレビの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音してください。

本機から出るテレビの音声が映像より遅れる

- 音声と映像のずれ調整機能の設定値が25msec～300msecに設定されていたら、0msecに設定してください（34ページ）。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。

本機につないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください（11ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください（11ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。また、リモコンの入力切換+/-ボタンを繰り返し押して入力を切り換えてください（11ページ）。
- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認してください。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、本機から音が出ないことがあります。
- 本機の【本体設定】→【HDMI設定】→【HDMI信号フォーマット】の設定を【標準フォーマット】にしてください（19ページ）。

サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 【音声出力】が【スピーカー+HDMI】に設定されているときは、マルチチャンネルのソースもテレビと同じようにステレオで本機のスピーカーから出力

されます。この場合は、[スピーカー]に設定してください（63ページ）。

ワイヤレスマルチルーム機能を使用すると、映像より音が遅れる

- ワイヤレスマルチルーム機能を使って本機の【TV】、【HDMI1】、【HDMI2】、【HDMI3】または【Analog】入力の音声を再生している場合、他のスピーカーの音声と同期するため、本機の音声は映像より遅れて出力されます。映像と音声のズレが気になる場合は、オプションボタンを押し、【マルチルームグループ同期調整】を【切】にしてください。（テレビ入力の場合は、リモコンのオプションボタンを押してから、▲/▼ボタンで本体表示窓に「M.SYNC」を表示させて決定ボタンを押し、▲/▼ボタンで「OFF」を選んで決定ボタンを押してください。）【切】にすると、本機の映像と音声は同期しますが、他のスピーカーの音声は遅れて聞こえます。

サブウーファー

サブウーファーから音声が出ない

- リモコンのサブウーファー+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げてください（33ページ）。
- サブウーファーの入／スタンバイランプが緑色またはオレンジ色に点灯していることを確認してください。
- サブウーファーの入／スタンバイランプが消灯している場合は、以下を試してください。

—サブウーファーの電源コードがしっかりと差し込まれているか確認する。

—サブウーファーのI／O（入／スタンバイ）ボタンを押して電源を入れる。

- サブウーファーの入／スタンバイランプが緑色またはオレンジ色でゆっくり点滅、または、赤色に点灯している場合は、以下を試してください。

—サブウーファーの入／スタンバイランプが緑色またはオレンジ色に点灯するようにサブウーファーの位置を本体の近くに動かす。

—「サブウーファーとワイヤレス接続をする（セキュアリンク）」（50ページ）の手順を行う。

- サブウーファーの入／スタンバイランプが緑色に早く点滅している場合は、ソニーサービス窓口にご相談ください。

→ サブウーファーの入／スタンバイランプが赤色に点滅している場合は、サブウーファーのI／O（入／スタンバイ）ボタンを押して電源を切り、サブウーファーの通風孔がふさがっていないか確認してください。

→ サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。

→ ナイトモードを【切】にしてください。詳しくは「深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ（ナイト

モード)」(32ページ)をご覧ください。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使ってください。
- 本体とサブウーファーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 本体とサブウーファーをできるだけ近づけてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を2.4 GHz帯に切り換えてください。
- テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてください。

USB機器の接続

USB機器が認識されない

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器が \downarrow (USB) 端子にしっかりとつながれているか確認してください(29ページ)。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているか確認してください。
- USB機器がハブを経由して本機とつながれている場合は、USB機器をハブから離して使ってください。

らはずして、本機に直接つないでください。

モバイル機器の接続

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください(36ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。
- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください(36ページ)。

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をなるべく近づけてからペアリングを行ってください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

NFC機能が使えない

- NFC機能はBLUETOOTH対応ヘッドホンでは働きません。BLUETOOTH対応ヘッドホンで音楽を聞く場合は、「テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く」(39ページ)をご覧ください。

- BLUETOOTH対応機器側のNFC機能が有効になっているか確認してください。

つないだBLUETOOTH機器の音が本機から出ない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください（36ページ）。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

ヘッドホンのBLUETOOTH接続

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください（8ページ）。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。

- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。

- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください（39ページ）。

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をなるべく近くでからペアリングを行ってください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

NFC機能が使えない

- NFC機能はBLUETOOTH対応ヘッドホンでは働きません。BLUETOOTH対応ヘッドホンで音楽を聞く場合は、「テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く」（39ページ）をご覧ください。

つないだBLUETOOTH対応ヘッドホンから音が出ない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください（8ページ）。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。
- [ワイヤレス再生品質] の [接続優先] をお試しください (65ページ)。

有線のネットワーク接続

ネットワークにつながらない

- ネットワークの接続 (22ページ) と通信設定 (68ページ) を確認してください。

無線LANのネットワーク接続

[Wi-Fi Protected Setup™(WPS)]を行ったあとにパソコンをインターネットにつなげない

- ルーターの設定をする前にWi-Fi保護設定機能を使うと、ルーターのワイヤレス設定が自動的に変わることがあります。その場合はパソコンのワイヤレス設定を変えてください。

本機をネットワークにつなげない、またはネットワーク接続が不安定になる

- 無線LANルーターの電源がオンになっていることを確認してください。

- ネットワークの接続 (23ページ) と通信設定 (68ページ) を確認してください。
- 壁の素材、電波の状態、本機と無線LANルーター間の障害物などの使用環境によって、通信距離が短くなることがあります。本機と無線LANルーターを近づけてください。
- 電子レンジ、BLUETOOTH機器、デジタルコードレス機器などの2.4 GHzの周波数帯域を使う機器は、通信に影響を与えることがあります。それらの機器を遠ざけるか、電源を切ってください。
- 特に本機のBLUETOOTH機能を使っているときは無線LAN接続が使用環境により不安定になることがあります。無線LAN使用環境の改善をお試しください。

無線LANルーターがワイヤレスネットワークのリストに表示されない

- 戻るボタンを押して前の画面に戻り、[無線LAN設定] をお試しください (23ページ)。それでも無線LANルーターが検出されないときは、ネットワークリストから [新しい接続先の登録] を選んでから [手動登録] を選び、ネットワーク名 (SSID) を手動で入力します。

インターネット接続

インターネットにつながらない

- 有線または無線LANの接続を確認してください。
- ルーターまたは無線LANルーターを再起動してください。

ワイヤレスマルチルーム

映像より音が遅れる

- ワイヤレスマルチルーム機能を使って本機の [TV]、[HDMI1]、[HDMI2]、[HDMI3] または [Analog] 入力の音声を再生している場合、他のスピーカーの音声と同期するため、本機の音声は映像より遅れて出力されます。映像と音声のズレが気になる場合は、オプションボタンを押し、[マルチルームグループ同期調整] を [切] にしてください。(テレビ入力の場合は、リモコンのオプションボタンを押してから、▲/▼ボタンで本体表示窓に「M.SYNC」を表示させて決定ボタンを押し、▲/▼ボタンで「OFF」を選んで決定ボタンを押してください。) [切] にすると、本機の映像と音声は同期しますが、他のスピーカーの音声は遅れて聞こえます。

Sony | Music Centerでワイヤレスマルチルーム機能が使えない

- 本機と同一のネットワークにモバイル機器をつないでください。

リモコン

本機のリモコンが機能しない

- 本体のリモコン受光部に向けて操作してください(8ページ)。
- リモコンと本機との間に障害物を置かないでください。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。

- リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください。

テレビのリモコンが機能しない

- IRリピーター機能を有効にしてください(55ページ)。

その他

HDMI機器制御機能が正しく働かない

- 本機との接続を確認してください(スタートガイド(別紙)を参照)。
- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。
- 本機につないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 本機につないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器(ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど):3台まで
 - 再生機器(ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど)

ど) : 3台まで (本機がそのうちの1台を使用します。)

－チューナー関連機器 : 4台まで
－オーディオシステム (AVアンプ／ヘッドホン) : 1台まで (本機が使用します)

表示窓に「PRTCT (プロテクト)」、「PUSH」、「POWER」と点滅表示される

→ ⌂ (電源) ボタンを押して電源を切り、表示が消えたら電源コードを抜き、本体の通風孔がふさがっていないか点検してください。

表示窓に「BT TX」と表示される

→ リモコンのBLUETOOTH受信/送信ボタンを押して [Bluetoothモード] を [受信] に切り換えてください。「BT TX」と表示されている場合は、[Bluetoothモード] が [送信] になっています (64ページ)。リモコンのBLUETOOTH受信/送信ボタンを押すと [Bluetoothモード] が [受信] に切り換わり、表示窓に選んでいる入力が表示されます。

テレビの各種センサーが正常に動作しない

→ 本体の置きかたによっては、本体がテレビの各種センサー (明るさセンサーなど) や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部 (赤外線通信)」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置まで本体をテレビから離してください。各種センサーやリモコン

受光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

無線機能 (BLUETOOTH、無線LAN、サブウーファー) が不安定

→ 本機の周辺にテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。

急に知らない音楽が再生された

→ 店頭用内蔵音源が再生されている可能性があります。本体の→ボタンを押すと再生が停止します。

本機が正常に動作しない

→ 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。本体の⌂ (電源) ボタンと→ボタンを5秒以上押してください (81ページ)。

初期化する

「困ったときは」で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定] を選ぶ。

設定メニューが表示されます。

3 [設定初期化] → [出荷時 設定に戻す] を選ぶ。

4 初期化したい項目を選ぶ。

5 [実行] を選ぶ。

初期化をキャンセルする

手順5で [中止] を選びます。

ホームメニューで本機を初期化できない場合

本体の（電源）を押しながら、-ボタンを5秒以上押す。

設定が初期化されます。

ご注意

初期化によりサブウーファーとの接続が切断される場合があります。その場合は、「サブウーファーとワイヤレス接続をする（セキュアリング）」(50ページ)を行ってください。

困ったときは

その他

主な仕様

バースピーカー (SA-ST5000)

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA^{*}）
フロントL／フロントRスピーカーブロック：50 W × 2（各チャンネル6 Ω、1 kHz）
フロントトゥイーターL／フロントトゥイーターRブロック：50 W × 2（各チャンネル6 Ω、10 kHz）
センタースピーカーブロック：50 W × 5（各チャンネル6 Ω、1 kHz）
センタートゥイーター ブロック：50 W（各チャンネル6 Ω、10 kHz）
トップスピーカーブロック：50 W × 2（各チャンネル6 Ω、1 kHz）

入力

HDMI入力**（1/2/3）

デジタル入力（TV）

アナログ入力

出力

HDMI出力**（TV（eARC/ARC））

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定による測定値です。

** HDMI入力1/2/3端子とHDMI出力（TV（eARC/ARC））端子はHDCP 2.2規格に対応しています。HDCP 2.2は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。

USB部

USB端子：
Aタイプ（USBメモリー）

LAN部

LAN（100）端子
100BASE-TX端子

無線LAN部

通信方式 IEEE 802.11 a/b/g/n
使用周波数帯域 2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH部

通信方式 BLUETOOTH標準規格 Ver.4.1
出力 BLUETOOTH標準規格 Power Class 1
最大通信距離 見通し距離約30 m¹⁾
登録台数 9台まで
使用周波数帯域 2.4 GHz帯（2.4 GHz～2.4835 GHz）

変調方式 FHSS
対応BLUETOOTHプロファイル²⁾
A2DP1.2（Advanced Audio Distribution Profile）
AVRCP1.5（Audio Video Remote Control Profile）

対応コーデック³⁾
SBC⁴⁾、AAC⁵⁾、LDAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz～40,000 Hz（LDAC 96 kHzサンプリングかつ990 kbpsで伝送時）
20 Hz～20,000 Hz（44.1 kHzサンプリング時）

1) 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。

2) BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

3) 音声圧縮変換方式のことです。

4) Subband Codec の略です。

5) Advanced Audio Codingの略です。

フロントL／フロントRスピーカーブロック部

形式

同軸2ウェイスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

ウーファー：65 mm コーン型、磁性流体スピーカー
トゥイーター：14 mm ソフトドーム型

センタースピーカーブロック部

形式

センター
同軸2ウェイスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

サテライト

フルレンジスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

センターウーファー：65 mm コーン型、磁性流体スピーカー
トゥイーター：14 mm ソフトドーム型
サテライト：65 mm コーン型、磁性流体スピーカー

トップスピーカーブロック部

形式

フルレンジスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

65 mm コーン型、磁性流体スピーカー

一般

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：90 W
スタンバイ状態の消費電力について詳しくは、「各スタンバイモードの設定値による消費電力」(85ページ)をご覧ください。

最大外形寸法*（約）（幅／高さ／奥行き）

1,180 mm × 80 mm × 142 mm（グリル非装着時）

1,180 mm × 80 mm × 145 mm（グリル装着時）

* 突起部除く

質量（約）

8.3 kg（グリル非装着時）

8.8 kg（グリル装着時）

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

対応iPhone/iPod

以下のモデルに対応しています。本機につないで使用する前にiPhone/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。
iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/
iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/
iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/
iPhone 5/iPhone 4s
iPod touch (6th generation) /iPod touch (5th generation)

サブウーファー (SA-WST5000)

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

200 W、 2Ω 、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

形式

サブウーファーシステム
パッシブラジエーター型

使用スピーカー

180 mm コーン型

200 mm × 300 mm コーン型、パッシブラジエーター

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：30 W

スタンバイ状態のとき：0.5 W以下

最大外形寸法（約）（幅／高さ／奥行き）

248 mm × 403 mm × 426 mm（突起部除く）

質量（約）

14.5 kg

ワイヤレストランスマッター ／レシーバー部

通信方式

Wireless Sound Specification

version 3.0

使用周波数帯域

5.2 GHz 帯（5.180 GHz - 5.240 GHz）

変調方式

DSSS

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがあります。ご了承ください。

各スタンバイモードの設定値による消費電力

スタンバイモード	お買い上げ時の設定	設定値		
[Bluetoothスタンバイ] (65ページ)	[入]	[切]	[入]／[切] ¹⁾	[入]／[切] ¹⁾
[リモート起動] (69ページ)	[切]	[切]	[入]	[入]／[切] ¹⁾
[高速起動／ネットワークスタンバイ] (67ページ)	[切]	[切]	[切]	[入]
消費電力	2 W以下	0.5 W以下	3 W以下	7 W以下 ²⁾

¹⁾ 設定値 [入]／[切] どちらでも消費電力は同じです。

²⁾ すべての有線／無線ネットワークが有効な場合。

再生できる音声 ファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III) ¹⁾	.mp3
AAC/HE-AAC ^{1),2)}	.m4a, .aac ³⁾ , .mp4, .3gp
WMA9 Standard ²⁾	.wma
WMA10 Pro ⁴⁾	.wma
LPCM ¹⁾	.wav
FLAC ²⁾	.flac, .fla
Dolby Digital ^{1),3)}	.ac3
DSF ²⁾	.dsf
DSDIFF ^{2),5)}	.dff
AIFF ²⁾	.aiff, .aif
ALAC ²⁾	.m4a
Vorbis	.ogg
Monkey's Audio	.ape

- 1) 本機は拡張子が「.mka」のファイルも再生できますが、ホームネットワーク上にある場合は再生できません。
- 2) ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できないことがあります。
- 3) ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できません。
- 4) ロスレスなどでエンコードされたファイルは再生できません。
- 5) DSTエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録音状態、またはホームネットワークサーバーの状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - 1つの階層にある500番目までのファイル
- 本機はホームネットワークサーバー内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - 19階層目までのフォルダー
 - 1つの階層にある999番目までのファイル／フォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーやハードディスクなど）、101キーボードを認識します。

入力できる音声フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	入力			
	HDMI1 HDMI2 HDMI3	TV (eARC)	TV (ARC)	TV (OPT)
LPCM 2ch	○	○	○	○
LPCM 5.1ch	○	○	—	—
LPCM 7.1ch	○	○	—	—
Dolby Digital	○	○	○	○
Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Digital Plus	○	○	○	—
Dolby Atmos - Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby Digital Plus	○	○	○	—
DTS	○	○	○	○
DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1	○	○	○	○
DTS 96/24	○	○	○	○
DTS-HD High Resolution Audio	○	○	—	—
DTS-HD Master Audio	○	○	—	—
DTS-HD LBR	○	○	—	—
DTS:X	○	○	—	—
DTS:X Master Audio	○	○	—	—
MPEG-2 AAC	○	○	○	○

○：対応

—：非対応

ご注意

HDMI入力1/2/3端子は、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのコピープロテクションが含まれる音声フォーマットは対応しません。

入力できる映像フォーマット

以下の映像フォーマットに対応しています。

解像度	フレームレート	3D	カラースペース	色深度	[HDMI信号フォーマット] 設定
4K 4096×2160p 3840×2160p	50/59.94/60 Hz ¹⁾	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit	[拡張フォーマット] ²⁾
		—	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
		—	YCbCr 4:2:0	10/12 bit	
	23.98/24/25/ 29.97/30 Hz ¹⁾	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 bit	
4K 4096×2160p 3840×2160p	50/59.94/60 Hz ¹⁾	—	YCbCr 4:2:0	8 bit	[標準フォーマット] ³⁾
	23.98/24/25/ 29.97/30 Hz	—	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 bit	
		—	YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	
1920×1080p	50/59.94/60 Hz	○	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 bit	[標準フォーマット] ³⁾
	23.98/24/25/ 29.97/30 Hz	◎			
1920×1080i	50/59.94/60 Hz	◎			
1280×720p	50/59.94/60 Hz	◎			
	23.98/24/29.97/ 30 Hz	◎			
720×480p	59.94/60 Hz	—			
720×576p	50 Hz	—			
640×480p	59.94/60 Hz	—	RGB 4:4:4		

○：左右分割方式（サイドバイサイド）、上下分割方式（トップアンドボトム）の3D信号に対応しています。

◎：フレームパッキング、左右分割方式（サイドバイサイド）、上下分割方式（トップアンドボトム）の3D信号に対応しています。

¹⁾ オプションボタンと画面表示ボタンが働きません。またオンスクリーンディスプレイ(OSD)も表示されません。

²⁾ 18Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をご利用ください。

- 3) プレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）またはソニー製のハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をご利用ください。

HDMI端子とHDMI機器の接続について

- 認証を受けたHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- 本機の入力が [TV] のときは、HDMI出力 (TV (eARC/ARC)) 端子からは前回選ばれたHDMI入力 (HDMI入力 1/2/3) の映像が出力されます。
- 本機はトリルミナスに対応しています。
- すべてのHDMI入力端子とHDMI出力 (TV (eARC/ARC)) 端子は、18Gbpsまでの帯域、HDCP2.2¹⁾、BT.2020広色域²⁾、そして、HDR (High Dynamic Range) ³⁾ コンテンツ伝送に対応します。

¹⁾ HDCP 2.2は4K画像などのコンテンツ用に新しく強化された著作権保護技術です。

²⁾ BT.2020色域は、4Kテレビで定義された、新しい広色域規格です。

³⁾ HDRは、より広い範囲の(明部と暗部の)輝度を表現できる鮮やかなビデオ規格です。本機はHDR10方式、HLG (Hybrid Log Gamma) 方式、Dolby Vision方式に対応しています。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：
－BLUETOOTH標準規格Ver. 4.1

対応BLUETOOTHプロファイル：

- －A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- －AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側 BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約30m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度

の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準

規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと

ソフトウェア使用 許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社（以下「ソニー」とします）とお客様との間でのソニーソフトウェア（コンピューターソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします）の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件（GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL)）を含みますが、これらに限られるものではありません）を伴うソフトウェア（以下「対象外ソフトウェア」とします）が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令によって保護さ

れています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条（使用権）

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス（以下「指定デバイス」とします）上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条（権利の制限）

- お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
- お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
- お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の

- 権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
- 5.お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
- 6.許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（責任の範囲）

- 1.ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の

不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。

- 2.許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス（当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます）は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘つて正常に稼動することを保証いたしません。
- 3.お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過

失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条（用途の限定）

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途（例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器）を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条（第三者に対する責任）

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条（著作権保護及び自動アップデート）

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産

権に関する法令に従うものとします。また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。

2. お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者（ソニーの関連会社を含む）のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。

(ア) 許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、

(イ) 当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること

(ウ) アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条（ネットワークサービス）

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要

があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティ及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条（契約の解約）

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
2. 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れするものとします。

第12条（契約の改訂）

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニー サービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・
感電**により**死亡や大けが**の原因
となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下しきがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えることがあります。

設置上のご注意

本機の角だけがをしないようにお気をつけください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

△ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経つてから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



接触禁止



指示

△ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

+と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 壁掛け時は、下から3cm以上との高さに取り付けてください。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。
- 電気通信事業法により、無線モジュールの変更は禁止されています。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通ります。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。

研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS/OF4

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と

してDS-SS変調方式およびOFDM変調
方式を採用し、与干渉距離は40 mで
す。

2.4FH/XX8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してFH-SS変調方

式およびその他の方式を採用し、与干
渉距離は80 mです。

法令により本機の5 GHz帯無線装置を屋外
で使用することは禁止されています。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

~~152~~ W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n準拠
(W52/W53/W56)

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信
システムの無線設備として、認証を受けて
います。従って、本機を使用するときに無
線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せら
れことがあります。

- 本機を分解／改造すること

第三者が提供するサービスに関する 免責事項

本製品に搭載され、または本製品で利用可
能なネットワークサービス、コンテンツお
よびソフトウェア（オペレーションシステ
ム含む）には、各々の利用条件が適用され
ます。予告なく提供が中断・終了したり、

内容が変更されたり、ご利用に際して別途
の登録や料金の支払いが必要になる場合が
ありますので、ご了承ください。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでイン
ターネットに接続してご使用になる場合、
ソフトウェアを自動で最新にアップデート
(更新) する機能を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追
加されたり、より便利かつ安定してご使用
になりますことができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせた
くない場合は、スマートフォン／タブレッ
トにインストールしたSony | Music Center
を使って、本機能を無効にすることができます。

ただし、本機能を無効にしても、安定して
ご使用いただくため等により、ソフトウェア
を自動でアップデートすることができます。

また、本機能を無効にしても、お客様の操
作で、システムソフトウェアをアップデー
トすることは可能です。

詳しい設定方法は「設定メニューを使う」
(61ページ) をご確認ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご
使用いただけない場合があります。

商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル*、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

- * ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Vision、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS の特許については下記をご覧ください。

<http://patents.dts.com>

DTS社からの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボル、DTSおよびシンボルの組み合わせ、DTS:XおよびDTS:Xロゴは米国および他の国々で登録されたDTS社の登録商標または商標です。

© DTS, Inc. All Rights Reserved.

BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

Android、Google、Google Play、Chromecast built-in、およびその他の関

連するマークやロゴは、Google LLCの商標です。

Apple、iPhone、iPod、iPod touchは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

「Made for Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

“ブリビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“ClearAudio+”はソニー株式会社の登録商標です。

ウォークマン®、WALKMAN®、WALKMAN®ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および／またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製

品以外で使用または頒布することは禁じられています。

1995-2016 Opera® Devices SDKはOpera Software ASAの登録商標です。

O POWERED BY OPERA®

Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®およびWi-Fi Alliance®は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™および、Wi-Fi Protected Setup™は、Wi-Fi Allianceの商標です。

LDAC™およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。

LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源をBluetooth経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。

SBC等の既存Bluetooth向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します*。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍**のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBluetooth無線伝送を実現しています。

* DSDフォーマットは除く。

** 990kbps (96/48kHz) または909kbps (88.2/44.1kHz) のビットレートを選択した場合のSBC (Subband Coding) の比較。

本機には、GNU General Public License ("GPL") または GNU Lesser General Public License ("LGPL") の適用を受けるソフトウェアが含まれております。このため、お客様には GPL/LGPL の条件に従つて、これらのソフトウェアのソースコード

の入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて、詳しくは本機の【設定】メニューの【本体設定】の【ソフトウェアライセンス】をご覧ください。

"DSEE HX" はソニー株式会社の登録商標です。

DLNA™、DLNA ロゴおよびDLNA CERTIFIED™はDigital Living Network Allianceの商標、サービスマークあるいは認証マークです。

"TRILUMINOS" および"TRILUMINOS" ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

本機には以下のライセンスの適用を受ける Spotifyソフトウェアが含まれております。
<https://developer.spotify.com/third-party-licenses/>

SpotifyとSpotifyロゴはSpotify Groupの商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック
「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

あ行

- 映像設定 62
- オーディオDRC 63
- オートジャンルセレクター 64
- 音声アップミックス設定 63
- 音声出力 63
- 音声設定 63
- 音量調整 8, 12

か行

- 外部機器からの操作 69
- かんたん設定 69
- 機器名 68
- 機器リスト 64
- 高速起動／ネットワークスタンバイ 55, 67
- 個人情報の初期化 69

さ行

- サウンドエフェクト 63
- サブウーファー 33, 50, 75
- 自動アップデート 67
- 自動アップデート設定 67
- 自動電源オフ 67
- 出荷時設定に戻す 69, 81
- 出力映像解像度設定 62
- スタンバイスルー 66
- スピーカー設定 49
- 接続サーバー設定 68
- 設定初期化 69, 81
- ソフトウェアアップデート 62

ソフトウェアアップデート通知 67

ソフトウェアライセンス 68

た行

- タイムゾーン 67
- チャイルドロック 53
- 通信設定 68

な行

- 入力スキップ設定 69
- ネットワーク接続診断 68
- ネットワーク設定 68
- ネットワークの設定確認 68

は行

- プロテクト表示 80
- ホームネットワークアクセス制御 68
- ホームネットワーク自動アクセス許可 68
- 本体情報 68
- 本体設定 66
- 本体表示 54

ら行

- リモート起動 55, 69
- リモコン 11, 55

わ行

- ワイヤレス再生品質 65

アルファベット

- ARC (Audio Return Channel) 9, 58, 66
- BLUETOOTH 36, 90
- Bluetooth Codec–AAC 65
- Bluetooth Codec–LDAC 65
- Bluetoothスタンバイ 55, 65
- Bluetooth設定 64
- Bluetoothモード 64
- DSEE HX 63
- eARC (Enhanced Audio Return Channel) 9, 20, 58, 67
- HDMI映像出力フォーマット 62
- HDMI機器制御 56, 66
- HDMI信号フォーマット 67
- HDMI設定 66
- IRリピーター 55, 66
- NFC 38
- PRTCT 80
- Sony | Music Center 43
- TV音声入力モード 66
- Video Direct 62

型名：HT-ST5000

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル
..... 0120-333-020

携帯電話・PHS・一部のIP電話
..... 050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル
..... 0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話
..... 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は
こちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「3 0 6」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

 **DOLBY ATMOS®**

**DOLBY VISION
COMPATIBLE**

 **DLNA
CERTIFIED™**

LDAC

dts 

HDMI

Made for
iPhone | iPod



* 4 6 8 7 8 3 8 0 4 * (1)

©2017 Sony Corporation Printed in Malaysia

4-687-838-04(1)